公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団
令和４年度事業計画

（令和４年４月１日から令和５年３月３１日まで）

【令和４年度経営の基本的考え方】

新型コロナウイルス感染症は、これまでの集客を中心とした博物館の事業展開を根底から覆し、新たな博物館像を模索する契機となりました。

令和３年度に本格化した博物館資料のデジタル化、展示解説動画の配信、オンラインによる講演会の開催など**デジタル化の取組を博物館全体で一層推進**するとともに、アフターコロナを見据え、**インバウンド対策として施設案内・展示解説の多言語化**、障害者など多様な方々に博物館を訪れていただくために**施設のバリアフリー化など**を横浜市とともに進めます。

未来の横浜を担う児童生徒の郷土愛の醸成に向けては、博物館への児童生徒の受け入れのほか、**授業で使える動画コンテンツ等の制作・発信など学校連携を強化**します。

令和４年は鉄道開業から 150 周年を迎え、歴史博物館では、これに合わせて鉄道の歴史を伝える企画展を開催します。企画展は、博物館ファンの獲得に向けた重要な事業であり、**時宜に即した展示を柔軟に展開**するとともに、**効果的な広報**にも力を入れていきます。

これらの取組を財団全体で進めることにより、共有財産である文化財・収蔵資料を将来世代に継承していきます。

令和４年度は、**横浜市の文化財の保存・活用に関する基本的なアクション・プランである「文化財保存活用地域計画」の策定年**です。当財団としては、横浜市とともに計画を仕上げ、計画に位置付けられた取組を着実に実行していきます。

その取組の一環として、横浜開港の象徴である「横浜開港資料館」とその周辺エリアの文化観光拠点化に向け、令和３年度に国の認定を受けた**「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に基づきハード、ソフト両面から事業を展開**していきます。

このほか、**災害や老朽化による施設の修繕対応**や**収蔵量がピークを迎えつつある博物館の収蔵庫の増設検討**など**安全・安心な施設管理**、令和７年１月末に**開館 30 周年を迎える横浜市歴史博物館の記念行事の検討**、**三殿台考古館の再整備に向けた検討**などの課題について、横浜市をはじめとした関係機関、団体等と検討を進めます。

上記取組の推進、課題解決に向け、大学や研究機関など他団体と連携した取組を進めるとともに、事業に必要な財源確保の一環として、国や民間企業等が実施するさまざまな補助金・助成金の獲得、クラウドファウンディングなどを通じた展覧会などへの協賛金、寄付金の受け入れなど**外部資金の獲得**に力を入れていきます。

このほか、**財団職員のスキルアップに向けた研修の充実**、**職場環境の向上に向けた勤怠管理システムの導入**にも取り組んでいきます。

こうした観点を踏まえ、令和４年度は法人経営を進めていきます。

【令和４年度経営における重点取組】

■デジタル化・多言語化・バリアフリー化の取組を一層推進

・資料のデジタル化、展示解説動画等の配信、オンライン講演会・講座等の開催、オンラインショップの充実
・施設案内・展示解説・施設ホームページの多言語化
・開港資料館旧館をはじめとした施設のバリアフリー化

■学校連携

・学芸員・エデュケーターによる訪問授業、出張講座等の実施
・授業の補助教材等となる動画コンテンツ・素材の制作・発信

■時宜に適した企画展示の展開等

・鉄道 150 周年や大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」など、社会の動きを見定めながら、企画展示を柔軟に展開
・併せて、関連するミニ展示等の併催等による展示の魅力アップ

■文化財保存活用地域計画策定

・計画策定への協力
・計画に基づく取組の検討・実施

■関内エリアの管理運営施設の積極的活用・周辺との連携強化

・横浜開港資料館文化観光拠点計画に基づく事業の推進
・エリア内施設間の一体的連携による効果的事業展開

■安全・安心な施設管理・運営

・適時適格な施設修繕対応
・施設ごとの危機管理マニュアルの策定・運用
・所蔵文化財等の被災対策を含めた収蔵庫の増設検討

■補助金・協賛金等、外部資金の積極的獲得

・新たな事業・運営推進のための国費・協賛金・寄付金等の獲得推進
・収益事業における収益の拡充と出費の縮減

■職員研修の充実と職場環境の向上

・財団の基本情報、公益法人会計等の基礎研修、外部資金獲得のための研修の実施
・勤怠システムの活用推進等による働きやすい環境整備
・一体的な組織づくりの推進

参考:法人設立趣旨(概略)

■目的

公益財団法人横浜市ふるさと歴史財団は、横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保管及び公開を行うとともに、歴史や文化財に関する普及啓発を行い、先人たちのあゆみや積み上げてきた文化を市民共有のものとし、さらに次世代へ継承していくことで、ふるさと意識の醸成及び、市民文化の発展に寄与します。

■基本方針

・法人は、上記の目的に基づき、指定管理事業、埋蔵文化財センターや史跡管理などの文化財業務委託事業、市史資料委託事業、組織管理運営を担う本部事業に一体的に取り組みます。
・文化財行政の一翼として、これまで果たしてきた役割を着実に継続していきます。
・横浜に関係した歴史の理解に資する国内外の資料や文化財の調査、研究、収集、保存、保護に一体的・継続的に取り組みます。また、埋蔵文化財の発掘を通し、遺跡や遺物の調査、研究、保存、保護に努めます。
・文化財や歴史資料を活用し、調査・研究の成果を広く市民に発信しながら普及啓発に努めます。また、歴史資料の閲覧、歴史研究に関する助言及び指導などに努め、市民の学びを支えていきます。
・市民協働、地域連携の事業を推進し、市民や地域に開かれた博物館を目指します。
・学校連携を充実し、児童・生徒の学びを支えていきます。
・横浜の歴史・文化や文化財を守り継承していくという公益的使命を立ち位置とし、公益財団法人として公益性のある事業を展開すると共に、効果的・効率的な事業の展開及び経営力の向上を図りながら組織運営に取り組みます。

Ⅰ　本部事業

［取組の全体像］

法人本部では、組織が担う使命を職員、各管理運営施設が一体となって遂行できるよう、公益財団法人、指定管理者、市外郭団体という３つの顔を持つ組織として求められることを踏まえ、理事会等で決定された経営の方向性を全体に示し、その使命を達成できるよう事業推進の企画調整、組織運営を進めます。

また、組織を支える人材の育成に向け、効果的・実践的な研修を実施することや、適正な人材配置等人事をしっかりと運営し組織力をアップします。

公益的役割を適正に果たしていくため、理事会・評議員会を適時・適切に開催・運営し、その結果等を遅滞なく神奈川県に報告するなど、法に基づく組織運営を行います。また、これら必置の会議体を補完し、主に実務上の諸課題に対応していくための各種会議の運営を行います。

また、コンプライアンスの意識を組織内に浸透させるとともに、人事労務の管理運営、予算の執行管理などを行い、円滑な組織経営を支えます。

施設設備の老朽化や故障、災害対応など、各管理施設の維持管理と来館者・職員の安心・安全を守る取組と所蔵文化財の維持・保全を図るため、横浜市所管課と連携し取組を進めていきます。

１　財団本部事業（定款第４条第１項第３号）

（１）円滑な組織管理・運営

①　効果的・実践的な研修の実施

②　職員が自らのキャリアパスを意識できる自己申告制度の実施

③　組織内役員会議、課長会議、担当係長会議等の諸会議の開催、各種規則整備

④　情報システム管理

1-情報システム機器の保守・管理

2-情報セキュリティに関する啓発・研修

3-財団内システムの円滑な運用

⑤　横浜市所管課との連絡調整

（２）人事・労務管理

①　職員の採用、異動等人事

②　就業規則他諸規則の整備及び運用

③　給与、社会保険、税金関係等の処理

④　定期健康診断の実施等による安全・衛生管理、福利厚生施策

⑤　職員メンタルヘルスの支援

（３）予算執行管理

①　当該年度の収入の見通し等、法人を取り巻く社会経済情勢を全体で共有し、各管理運営施設単独事業、横断・連携事業、全体で取り組む事業など、計画的、戦略的な予算編成・執行管理

②　補助金・寄附金・協賛金確保に向けた企画調整

（４）理事会・評議員会の運営

① 定期開催（理事会：４回／年・評議員会：２回／年）

② 重要課題に対応する臨時会開催（不定期）

③ 神奈川県への報告等、公益法人の責務の実行

（５）全体事業企画調整・推進

① 協約目標の共有など各管理施設間の共通認識形成

② 組織間など多様な連携創出

③ ＰＤＣＡサイクルを用いた企画展示の実施、成果・課題を今後の事業にフィードバック

④ 市民協働による事業の実施

⑤ 法人ホームページの管理・運営を通じた新規顧客確保につなげる事業等周知

⑥ メールマガジンの発行によるリピーターの確保

⑦ エデュケーター事業（学校連携）の実施

1-学校連携による各管理運営施設の利用促進

2-教育委員会、小・中学校社会科研究会及び法人主催の教職員研修の企画・調整・運営

3-学校の社会科を中心とした授業改善に向けての協力・連携・支援

4-小学校訪問授業の企画・調整・実施、周知

5-授業改善のためのアンケート実施と検証

6-学習補助教材となる授業コンテンツ等の作成、各学校への提供

（６）災害対応

① 防災訓練の実施推進

② 帰宅困難者一時滞在施設（歴史博物館）としての役割の理解と実際の災害時の現場対応

③ 所蔵文化財の防災対策、災害時の対応及び激甚災害への備えと対応の検討

Ⅱ　指定管理事業

［取組の全体像］

第３期指定管理においては、目標設定の基本的な考え方を「３年、５年、10 年の見通しをもった目標設定を行い、運営していく」こととしています。

令和４年度は第３期指定管理の後半期となり、２回目の中間検査が予定されています。「５館連携による豊かで幅広い取組」の更なる推進と、時宜に即応した課題や話題を事業に反映させていきます。

これらの取組にあたっては、集客効果を目指すだけではなく、デジタルコンテンツとして積極的に発信していきます。各施設、各部署の特長を生かしつつ、法人全体で情報を共有し、組織として一体的に事業に取り組みます。

１　組織全体としての取組及び事業

１　柔軟な発想と多様性を生み出す連携

◇共同研究による調査・研究

市民の幅広い興味や関心に応えられるよう、各館の専門職に連携を促し、同じテーマに共同で取り組むなど、横断的な調査・研究を進めます。また、共同研究により、横浜の新しい「通史」を描いていく研究の基礎を構築します。

◇魅力的・時宜に適した企画・展示・講座・出版

考古と美術史の専門職員が連携した「美術の目、考古の目」に続く、専門職員同士の連携や大学や企業との連携等により、企画展、歴史講座、各館情報冊子など、歴史の魅力と博物館の魅力を演出していきます。

◇地域への貢献

区や地域では、周年行事や町の活性化イベント、生涯学習講座など、歴史を通してまちづくりやふるさと意識を大切にする取組が行われており、各取組が充実するよう、組織の専門性を活かし、積極的に地域への貢献を行っていきます。

◇多様な組織との連携

多様な組織と連携・協力し多彩な取組を行うことで、博物館の新たな魅力を創出していきます。

◇子どもたちの学びの支援の実施

博物館に来館せずとも子どもたちが学べるよう、訪問授業や解説動画など授業コンテンツの提供や感染対策を徹底した体験活動やイベントを実施します。

２　活力ある、魅力的な組織への取組

◇横断的研究の継続

財団内の人材交流を活性化し、調査研究を充実させるために、各施設の職員が協同で行う横断的研究を今年度も継続して行います。また、ここで得られた研究成果を、連携展示や連携企画に反映していきます。

◇人材育成の充実

職員一人ひとりの資質向上を図るとともに、財団全体で魅力ある事業を組織的に進めていけるよう、効果的な研修を実施するとともに、担当係長会議等を充実します。また、職員がリーダーシップを発揮しやすい状況を生み出す「事業推進リーダー」を継続設置します。

【多様な組織との連携および地域への貢献】

連携	連携先		中心となる施設	内　容
区・地域との連携	全区		全管理運営施設	各管理運営施設の所在区をはじめ、各区の要請等により、歴史文化に関する様々な助言・執筆活動等の支援を実施
	特定テーマや事業を通じた連携を予定している区	中区	開港資料館 都市発展記念館	・「中区歴史の散歩道」の執筆等
		磯子区	三殿台考古館	・区内市民利用施設が連携して実施するゴールデンウィーク企画事業に参加
		金沢区	歴史博物館 埋文センター	・金沢区と財団で締結した「歴史文化の普及啓発に関する協定」に基づき文化事業等の実施
		港北区	歴史博物館	・小机城をテーマとした普及事業等、区内にある文化財の普及啓発事業を実施
		都筑区	歴史博物館	・広報よこはま都筑区版に「都筑の歴史」をテーマにした記事を隔月で連載する
		旭区	歴史博物館	・旭区にゆかりの深い鎌倉武士、畠山重忠についての普及啓発に協力
		戸塚区	埋文センター	・戸塚区の遺跡をテーマに戸塚地区センター・舞岡地区センター等で「横浜の遺跡展」と関連講座を開催。戸塚区役所・教委文化財課と共催
		青葉区	埋文センター	・地区センターの講座に講師派遣協力
		栄区	埋文センター	・栄区、栄図書館との連携事業 ・区民文化センター・地区センターとの連携
市との連携	研修会等		開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館 市史資料室	・市職員向け講座等の実施 ・区局主催の研修会への協力 ・市新採用職員研修での講話
	消防局		都市発展記念館	・アジア消防長協会・全国消防長会総会（IFCAA2022 YOKOHAMA）開催にともなう関連パネル展の実施
教育委員会との連携	小中学校企画課 方面教育事務所		全施設	・「授業づくり講座」等職員向け研修への協力 ・教材研究資料として財団作成資料等を配架
	教職員育成課		全施設	・新採用教員への施設年間無料パスを配布

教育委員会との連携	生涯学習文化財課	全施設	・文化財調査への協力 ・横浜市文化財保存活用地域計画の作成協力
		埋文センター	・戸塚区の遺跡をテーマに戸塚地区センター・舞岡地区センター等で「横浜の遺跡展」と関連講座を開催。戸塚区役所・教委文化財課と共催
市・区研究会との連携	社会科研究会（市・区）	全施設	・教員研修講師、施設見学、教材研究用資料案内 ・小学校博物館利用研究会 ・中学校教材開発研究会
学校との連携	小学校	全施設	・歴史学習・社会見学・展示見学の受入 ・学芸員、エデュケーターによる訪問授業
	小中学校	歴史博物館	・学校資料室の助言・活用
	神奈川県高等学校文化連盟	歴史博物館 開港資料館 都市発展記念館	・社会科クラブ研究活動への助言 ・展示見学の受け入れ、会場の提供等の協力
	近隣小学校	三殿台考古館	・小学校の地域交流クラブ・総合的な学習の時間等への支援
	中学校等	全施設	・中学校２年生を中心としたキャリア教育に協力し、職業体験等の受入
	中学校社会科教育研究会	歴史博物館	・横浜市立学校総合文化祭中学校社会科作品の展示会場として常設展示室内スタディサロン、研究発表会の会場として講堂を提供する
図書館との連携	都筑図書館	歴史博物館	・都筑図書館と連携・共催で、「郷土史展示」と講演会を実施
	栄図書館	埋文センター	・共催で出張展示を実施
他館との連携	県立博物館等	歴史博物館 開港資料館 ユーラシア文化館	・調査研究 ・企画展での協力
大学との連携	東海大学	歴史博物館	・館蔵資料の整理等を博物館実習のカリキュラムに組み込んだ「大学と博物館の協働による資料の保存活用事業」を実施する
	横浜市立大学	歴史博物館	・横浜市大所蔵の中世文書の共同資料調査と、当該資料を活用した企画展「追憶のサムライ横浜・中世武士のイメージとリアル」を実施
	大学学外研修	ユーラシア文化館	・東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習を受入
市民協働	市民ボランティア	歴史博物館	＜展示解説ボランティア＞ ・大塚遺跡を始めとする野外施設及び常設展示室の解説を実施 ・学校団体を始めとする来館者の展示理解を深めると共に、遺跡の解説との一体的サービスを実施 ＜活動支援ボランティア＞ ・体験学習室でのワークショップ、学校団体見学時の体験コーナー、ラストサタデープログ

			ラム等の集客イベント等に協力
	活動支援ボランティア	都市発展記念館 ユーラシア文化館	・活動支援ボランティアと連携して、企画展開催時の土・日にワークショップを開催 ＊新型コロナウイルスの感染拡大状況の様子を見ながら実施
	遺跡ガイドボランティア及び遺跡整理ボランティア	三殿台考古館 埋文センター	・関心ある市民にガイドとして参加してもらい、来館者への解説や体験学習を実施 ・ボランティアの協力を得て収蔵資料の再整理を実施
	横浜郷土史団体連絡協議会	歴史博物館 開港資料館	・横浜郷土史団体連絡協議会の事務局を担当し、連携して各種事業を実施 ＊新型コロナウイルスの感染拡大状況の様子を見ながら実施
	横浜歴博もりあげ隊との協働	歴史博物館	・博物館をバックアップする市民団体である「横浜歴博もりあげ隊」と協力し、講座やコンサート等のイベントを実施
	縄文土器づくりの会	歴史博物館	・学校からの要請に応じ「横浜縄文土器づくりの会」との協働で出張土器づくり指導を実施
	古文書を読む会	歴史博物館	・古文書解読教室の修了者が中心となって活動する「横浜古文書を読む会」と連携し、所蔵資料を中心に古文書の翻刻を行い、当館の出版物にその成果を発表
	古代史料を読む会	歴史博物館	・古代史講読講座の修了者が中心となって活動する「古代史料を読む会」と連携し、歴史を学ぶ一般の方向けの講座や講演会等を実施
	さいかちの会	歴史博物館	・展示解説ボランティアのＯＢや現役が中心となって活動する「さいかちの会」と協力し、講座や史跡見学実習等の展示解説ボランティアのスキルアップに資する事業や研修を実施
	スタチューパフォーマンス協会	ユーラシア文化館	・横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実施し、集客と地域の賑わい創出につなげる
地域連携	タウンセンター活性化検討会	歴史博物館	・港北ニュータウンタウンセンター地区の諸事業所と連携し、活性化を図る企画や催しを実施
	地元商業団体	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・ハマフェス Y163 に参加し、地域の賑わい創出に寄与
	日本大通り活性化委員会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・日本大通り周辺の事業所が連携し、活性化企画や催しを実施。横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを実施
	横浜中華街発展会	開港資料館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・中華街での出張展示の実施や横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムの実施

	山下公園通り会	開港資料館 都市発展記念館 ユーラシア文化館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携 ・加盟事業者によるイベント等への参加、協力 ・ハマフェス実施等についての連絡調整
	元町 SS 会	開港資料館	・開港資料館文化観光拠点計画で連携
	よこはま地域文化遺産デビュー・活用実行委員会	歴史博物館	・民家園・遺跡公園・博物館等を会場に、連携したイベントを開催する
	新聞博物館・放送ライブラリー	都市発展記念館 ユーラシア文化館	・横浜情報文化センターの２施設との広報やイベントなどの事業連携
	横浜地域資料研究会	開港資料館 歴史博物館 都市発展記念館	・中山恒三郎家文書を中心とした横浜市北部地域の総合的な調査・研究
	磯子区館長連絡会	三殿台考古館	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	栄区施設交流会	埋文センター	・区内市民利用施設の連携・情報交換
	横浜港振興協会	開港資料館	・同会機関誌に横浜の歴史に関する記事掲載等
	よこはま縁結び講中実行委員会	歴史博物館	青葉区の市民ギャラリーあざみ野、緑区のみどりアートパーク、港北区の大倉精神文化研究所及び小机城のあるまちを愛する会と連携し、北部4区の文化遺産を活用するイベント等を開催するとともに、一体的に情報を発信し、新たな地域文化圏の形成を図る
企業との連携	横浜ビー・コルセアーズ	歴史博物館	・横浜ビー・コルセアーズと協定を締結し、歴史およびスポーツ文化に関する普及啓発事業を協働で実施する
その他外部組織との連携	かながわ考古学財団	埋文センター	・かながわ考古学財団と職員相互派遣協定を結んでおり、調査や資料の鑑定などの派遣依頼について無償で相互協力をしている。
	全国埋蔵文化財法人連絡協議会	埋文センター	・情報交換・イベント共催

２　歴史博物館事業

［取組の全体像］

歴史博物館は、継続する**コロナ禍でも市民が安心して横浜の歴史と文化に親しみ、学べるように活動を進めます。**経営環境が厳しい中、事業の実施にあたっては**観覧料やミュージアムショップなどの収入増加に努めるほか、各種助成金等を申請・活用して外部資金の導入**を図ります。また昨年から始まった「よこはま縁結び講中」事業など、**多くの団体と連携しながら地域文化の発信拠点となりうる事業を展開**します。

資料収集事業では、**東海大学と連携し、館蔵資料の整理などをカリキュラムに組み込んだ「大学と博物館の協働による資料の保存活用事業」**を実施します。調査研究事業では基礎資料研究・テーマ研究・市民協働研究・連携調査研究を設定し、考古の分野では**外部研究者と連携した大塚遺跡出土土器の圧痕調査や水田の試耕**などを行います。これらの成果は企画展などの事業に繋げ、市民に還元していきます。

常設展示室では、スタディサロンの構造と特色を活かした来館者の満足度を高める事業に取り組むほか、多言語解説アプリを活用し、**生徒・児童に向けたコンテンツを発信**します。劣化や老朽化が進む展示機器については市と情報を共有し、適切な修繕を進めます。

企画普及事業では、**鉄道開業 150 年を迎える今年、横浜市内を走る鉄道会社 10 社が一堂に会する特別展「みんなでつなげる鉄道 150 年−鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり−」**を上半期に開催します。秋には**横浜市立大学と連携し、大河ドラマに登場する横浜市内にゆかりの深い鎌倉武士を取り上げ、後世に作り上げられたイメージと、当時の資料が示す具体像とを紹介する企画展「追憶のサムライ　横浜・中世武士のイメージとリアル」**を、冬季は**横浜が発祥となった近代金属活字の歴史や文化とともに、活字書体の美的側面やデザインにも注目する企画展「活字の世界」**を開催します。このほか**オンライン講座や**、感染症対策を徹底したワークショップ・イベント等も開催します。また昨年に続き**教育委員会が実施する小机城の発掘調査では、港北区と連携しながら埋蔵文化財センターと共に普及活動を進めます。**

文化庁からの助成を受け、昨年度から実施している「よこはま縁結び講中」では、青葉区・港北区・都筑区・緑区の北部４区の５団体と連携して地域の文化遺産を活用したプログラムを開催し、新たな地域文化圏の形成に資する事業を進めます。

施設管理では、開館から 26 年を経て生じる不具合について、安全を最優先に各機関と調整を図り、**修繕等の対応を**進めます。

収益事業では、**ミュージアムショップに注力し、企画展毎に魅力ある商品を仕入れて売上の向上を図るほか、オンラインショップのさらなる拡充**にも取り組みます。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

博物館の基幹となる資料の収集や整理、保存環境の維持・管理を適切に行います。また、公開や利用に供します。

（１）資料の収集

資料の保全、並びに展示や調査研究等の博物館活動で活用することを目的に、実物資料などを寄贈・寄託や購入等によって収集する。

（２）資料の修繕

資料の保全の観点から必要な修復を行う。

（３）資料の保存

収蔵庫へ納める資料については二酸化炭素などを利用した燻蒸を行い、またＩＰＭの手法による定期的な環境検査を実施して資料の保存環境の維持を図る。

（４）資料の整理活用

東海大学と連携し、館蔵資料の整理等を博物館実習のカリキュラムに組み込んだ「大学と博物館の協働による資料の保存活用事業」を実施する。当館や財団管理施設、また市内の資料所蔵施設の考古・歴史・民俗資料については、継続して整理を進める。

当館収蔵資料および展示資料のデジタル写真の撮影を進める。また過去に撮影して保管しているフィルムについては、順次デジタル化を進める。

（５）図書資料の公開

図書文献を収集して整理を進め、図書閲覧室で公開する。

（６）画像資料等の貸出

画像資料等を有料で貸出し、資源の活用を図る。

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）調査研究

博物館活動の原資となる調査研究として、**基礎資料研究・テーマ研究・市民協働研究**の３分野を設定し、継続的かつ計画的に進めていく。

項　　目	目的・意図	今年度の成果目標
基礎資料研究		
市域所在の中世資料の調査（2/2 年次）	市域に所在する中世資料の再確認を実施する。またそれに関係する近世・近代の古文書や金石文等の資料についても、近世・近現代の財団職員と連携し調査・撮影を行う。	市域に残る中世資料について確認調査を行う。駒林村に関する小田原北条氏関係文書の調査を神奈川県立歴史博物館と共同で行うほか、小机町鈴木家に残る豊臣秀吉禁制の調査を行う。
市域所在の近世・近代資料の調査(2/2 年次)	横浜市や神奈川県が昭和期に実施した調査により所在が確認された資料の再調査を行う。また新たに確認された資料の調査・整理を行う。	本年度は引き続き旭区野田家文書や金沢区米倉家文書の整理を行う。
横浜市域の美術史の基礎的研究（2/2 年次）	これまで横浜市域における美術作品の調査研究は未着手な状態である。これらを体系的に捉え、美術史の俎上で研究を進めるため、市域寺院、所蔵資料の基礎的データ蓄積と作成を行う。	昨年度実施した南区・寶林寺宝物の詳細調査と目録作成を進めるほか、当館所蔵絵画資料の悉皆調査を前年度に引き続き行い、浮世絵資料の目録作成のためのデータの整理を行う。
横浜市域の古墳時代資料の研究（2/2 年次）	博物館・財団施設の保管する古墳時代の出土資料は、横浜の古墳時代について知るための貴重な資料である。 市ヶ尾地域出土資料の基礎整理の実施や、再整理の完了した上矢部町富士山古墳出土品（横浜市指定文化財）の調査等を通じ、横浜の古墳時代像を描くことをめざす。	引き続き、横浜市域の古墳時代を代表する稲荷前古墳群・市ヶ尾横穴墓群（神奈川県指定史跡）の調査時資料の確認と、出土品の基礎整理を埋蔵文化財センターと連携して行う。また、上矢部町富士山古墳出土埴輪のうち、新規復元資料の写真撮影を行い、基礎データを整備する。これらの作業を通じて、横浜の古墳時代像を描くことをめざす。

テーマ研究		
近世後期横浜内陸部の村々の研究 **（2/2 年次）**	当館所蔵・寄託、財団施設所蔵文書の分析を中心として、近世後期における、横浜市内陸部（北部）の村々の近世後期の社会・治安状況を明らかにする。	引き続き、市域内陸部の村々の古文書史料を調査し、東海道沿いや開港場周辺村々との共通点や差異を探っていく。
活字文化と横浜の出版文化に関する研究 **（2/2 年次）**	世界規模で進む活字史の研究成果を整理し、横浜における活字の発展の歴史を明らかにする。	引き続き助成金を活用し、活字史研究家小宮山博史氏より寄贈された資料を用いた平仮名字形一覧の作業を進める。成果は展示等で公開する。
学校内歴史資料室に関する研究 **（2/2 年次）**	平成 25 年度からこれまでに実施した学校内歴史資料室の資料整理の成果に基づき、学校や地域と連携して、その活用を図る。	学校内歴史資料室に関する情報をまとめ、資料所在状況や具体的な活用のあり方等を明らかにする。
都筑区川和町中山家に関する研究 **（2/2 年次）**	平成 30 年度から「よこはま地域文化遺産デビュー・活用事業」の一環として整理している中山家資料について、前年度に引き続き、資料の分析を行い、川和地域と中山家の関係や様相を明らかにする。	中山家資料の整理・調査中において発見した『営業簿』（昭和3～9年）と『金銭判取帳』（昭和4年）を取り上げ、整理作業を進めるほか、分析のためのデータを蓄積する。
市民協働研究		
土器の実験考古学的研究（2/2 年次）	市内出土の土器について、**横浜縄文土器づくりの会・外部研究者**の協力を得ながら弥生土器の観察と製作・使用実験などを行い、先史時代の土器利用について研究する。	大塚遺跡出土の宮ノ台式土器の製作実験と使用実験を中心に行い、データの蓄積を進める。その成果は紀要や展示などで公開する。
市民協働古文書解読 **（2/2 年次）**	横浜古文書を読む会の下読み会とともに、当館所蔵の古文書を中心に、整理作業や解読を行う。解読の成果は紀要などで公開する。	武州金沢藩の目付日記(明治４年)の解読を実施する。解読した成果は紀要に掲載する。
市民協働民俗調査 **（2/2 年次）**	民俗に親しむ会とともに、鶴見川の支流である恩田川流域のフィールドワークを進める。	継続して恩田川流域のフィールドワークを実施し、鶴見川との合流点である緑区落合橋を目指す。また勉強会を開催し、流域の文化について学ぶ。

（２）連携調査研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設との連携研究を実施する。

施設間の連携による研究		
小机城・小机地域にかかわる総合的研究	R3～6 年度にかけての横浜市による小机城発掘調査とかかわり、小机城	令和 3 年度より続く「横浜縁むすび講中」と協力して、小机地域の歴史につ

(2/5 年次)	および周辺地域の文献史料その他の総合調査を行う。	いて調査を行う。
大塚遺跡の水田に関する研究（2/2 年次）	本研究では**三殿台考古館・埋蔵文化財センター・外部研究者と連携**し、水田遺構に関する先行研究や他地域の事例などを検討する。水田および畑を試耕し、弥生時代の稲作について検討する。大塚遺跡における水田の位置推定を進める。	水田稲作比較技術研究プロジェクトに参加し、水田や畑で、生育条件を変えた水稲や陸稲の実験育成を行い、弥生時代の稲作に関するデータの蓄積を進める。植物利用を把握するため出土土器の圧痕調査を行う。大塚遺跡周辺の水田推定地およびボーリング可能地点を複数個所検討する。
ユーラシア概念をめぐる研究（2/2 年次）	**ユーラシア文化館と連携**して、日本の古代から中世世界を包括する東部ユーラシア世界の研究を進める。	財団内外の研究者の研究発表会を開催し、東部ユーラシア世界の理解を深め、また共同企画展などの可能性を模索する。

（３）企画展開催にともなう調査研究

来年度以降に予定する企画展・特別展の準備のために他の機関・施設の資料調査などを実施する。

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）　※基本観覧想定数　55,000 人

常設展示室を公開し、広く市民に横浜 3 万年の歴史を紹介します。またミニ展示やイベントを開催し、利用者の促進を図ります。

※基本観覧想定数は、コロナ禍が収束したと仮定した場合の過去の入館者を参考に想定した観覧者数

（１）維持管理事業

展示物やビデオ機器類の保守点検、部分的な展示替えをふくむ維持管理、また修繕等を行う。

（２）魅力Ｕｐ事業

常設展示室の構造と特色を活かして、来館者の満足度を高めるための事業を行う。

（ア）「**横浜市歴史博物館多言語展示解説アプリ**」を活用し、外国人利用者を含む来館者の満足度を高めるほか、**児童・生徒向けのコンテンツを制作**する。

（イ）**デジタルサイネージ展示のコンテンツを充実**させる。

（ウ）スタディサロンの活用

スタディサロン内での展示を実施するほか、普及事業の一環として、スタディサロンを会場にした「**伝統芸能イベント**」等を実施する。

また来館者のモバイル端末を利用した、横浜の歴史や文化財に関する映像の視聴や Q&A（歴史クイズ）を提供・公開する。

（エ）ミニ展示

歴史劇場出口付近やスタディサロンを活用し、収蔵資料等の紹介や、小学校の学習単元に合わせた「ミニ展示」を実施する。

（オ）展示解説ボランティアによる常設展示解説

感染症対策を図りながら、**解説ボランティアによる常設展の展示解説**を学校団体や来館者に行

い、展示理解の向上に努める。

（３）更新検討事業

開館30周年を見据え、常設展示室のリニューアルについて検討を行う。

また、歴史劇場については、制御装置や機器の老朽化が進んでいることから、今後の円滑な運営を維持するべく対応を検討する。

４　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）企画展・特別展

本年は、東日本大震災から 10 年にあたり、東北地方の文化を意識したテーマを前半に据え、企画展・特別展を開催する。感染症対策を踏まえて関連事業を展開し、より広い層の方々に当館の展示をご覧いただけるように広報を努めていく。

※基本観覧想定数は、コロナ禍が収束したと仮定した場合の過去の入館者を参考にした人数

企画展・特別展名称／開催期間	基本観覧想定数	目的・意図、実施内容
特別展「みんなでつなげる鉄道 150 年 –鉄道発祥の地よこはまと沿線の移り変わり—」 令和４年３月 19 日(土) ～９月 25 日(日)	33,000 人	令和４年（2022）は、新橋と横浜の間を結ぶ鉄道が開業してから 150 周年の節目の年にあたり、横浜にかかわる鉄道各社の歩みを展覧会や多くの関連事業を通じて紹介し、各社の鉄道利用者はもとより、鉄道愛好家や広く横浜市民に対して、鉄道の歴史の奥深さや新たな発見を紹介する。　対象：一般
企画展「追憶のサムライ—横浜・中世武士のイメージとリアル—」（仮題） 令和４年 10 月８日（土）～ 11 月 27 日（日）	5,500 人	R4 年度 NHK 大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」放映を受けて、市域に伝承を持つ鎌倉期武士の資料とそのイメージ形成について、および実際の武士に関わる古文書を紹介しながら武士のリアルについて、紹介する。横浜市立大学および旭区等と連携する。対象：一般
企画展「活字の世界」（仮題） 令和４年 12 月 10 日（土） ～令和５年２月 27 日（日）	8,000 人	幕末から明治初頭にかけて、横浜は金属活字伝来の一拠点であり、活字黎明期における情報の発信地であった。展示では、活字の日本への伝来と横浜を中心とした活字文化発展の歴史をたどる。また活字書体そのものの字形の美しさや書体・書風に着目し、活字の美的側面と、活字を選択し美しく効果的に配置するデザイン的な側面から、活字とその展開をたどる。対象：一般
収蔵品展 令和４年３月下旬～５月上旬	10,000 人	収蔵する浮世絵等を活用し、市民に紹介する展示を開催する。

（２）講座・講演会

項　　目	目的・意図
歴史講座	当館学芸員や外部招聘した講師により、横浜の歴史や民俗等をテーマにした講座を開催する。
街頭紙芝居デビュー講座	横浜市の有形民俗文化財に指定されている街頭紙芝居の複製を活用し、街頭紙芝居の歴史や特徴を学びながら、受講生が実際に実演するまでの講座を開催する。
古文書解読教室　初めての古文書　オンライン（３回目）	初心者を対象に、当館学芸員を講師として、近世古文書の解読講座を開催する。**オンラインにて実施予定**。全８回。
特別講演会	毎年実施している、開館を記念した特別講演会。考古・歴史・民俗・美術分野の第一線で活躍する研究者を講師に招いて実施する。
実験考古学講座	港北ニュータウン地域内で出土した縄文時代の土器をモデルに製作する講座。全４回。
関連団体との協働歴史講座	当館の関連団体と協働で随時歴史講座を開催する。

（３）普及体験

項　　目	目的・意図
体験学習室「れきし工房」	ミュージアムショップで販売する「れきし工房キット」を制作するワークショップ。作品を「作る」ことに主眼を置く。制作のサポートは、活動支援ボランティアの協力を得る。新型コロナ流行の状況を鑑み、事前申込・定員制にて原則毎月実施する。
事前申込型「れきし工房」	野外施設の工房や体験広場等で、ゲスト講師を招き、楽しみながら歴史に触れるワークショップ「れきし工房」を開催する。「作る」だけではなく作品の背景も学ぶ。万祝染、和凧、小さな土器等を実施。
バックヤードツアー	博物館の裏側を見学できるツアーを開催。隔月に一回ずつ実施する予定。
ナイトミュージアム	閉館後の照明を落とした博物館を、懐中電灯などを使ってワークシートを解きながら探検する。
スタディサロンイベント	スタディサロンを活用して、外部の演者による日本の伝統的な芸能に触れるイベントを実施する。
銅鏡チョコを作ろう！	横浜の歴史に親しみ、遺物の制作方法や考古学の研究手法についておいしく学べるお菓子作りワークショップ。チョコは日吉矢上古墳出土だ龍鏡をモデルとする。
ドッキーを作ろう！	横浜の歴史に親しみ、遺物の制作方法や考古学の研究手法についておいしく学べるお菓子作りワークショップ。市内出土縄文土器をモデルとする。

（4）集客イベント等

新型コロナウィルス感染症対策を図りながら可能なイベントを実施するほか、状況に応じて追加で事業を実施するなど、柔軟に対応する。

項　　目	内　　容
ラストサタデープログラム	毎月最終土曜日を「ラストサタデー」とし、常設展示室やエントランスホールなどを使って各種イベントを開催する。
博物館感謝デー	パフォーマンスなど、各種行事を実施する。
「開港記念日」市民優待デー	開港記念日を祝し、横浜開港を中心とした展示解説やイベントを実施する。
都筑区民まつり連動イベント	文化の日に実施される都筑区民まつりと連動して、イベントを実施する。
コンサートの実施	歴史博物館をより身近に利用していただけるよう、外部文化団体と協働で、エントランス等を会場にコンサートを開催する。
センター北まつり連動イベント	３月に実施されるセンター北まつりと連動してイベントを実施する。
街頭文化祭	特定日に紙芝居やパフォーマンスといった街頭で行われていた大衆芸能を実施し、新たな客層の集客を図る。
おもしろいぞ！紙芝居	**横浜市指定有形民俗文化財の街頭紙芝居を活用**し、ラストサタデープログラムの一環として複製した紙芝居を実演する。

（5）市民協働

項　　目	内　　容
ボランティアとの連携	**＜展示解説ボランティア＞** 市民ボランティアにより、大塚遺跡を始めとする博物館野外施設および常設展示室の解説を行う。学校団体を始めとする来館者の展示理解を深めると共に、遺跡の解説との一体的サービスにより、館全体の活性につなげる。なお今年度より新規ボランティアを受け入れる。
	＜活動支援ボランティア＞ 令和３年度、新型コロナウイルス感染拡大状況を見極めながら徐々に再開した体験学習室でのワークショップ「れきし工房」での対面指導を、今年も可能な限り継続する。この他にも、スタディサロンや体験学習室、遺跡公園などにて、With コロナ時代の安全な活動を模索してゆく。
横浜郷土史団体連絡協議会との連携	開港資料館と共に**横浜郷土史団体連絡協議会**の事務局を担当し、連携して各種の事業を実施する。
横浜歴博もりあげ隊との協働	博物館をバックアップする市民団体である**「横浜歴博もりあげ隊」と協働**し、講座やコンサート等のイベントを実施していく。

横浜縄文土器づくりの会との協働	学校からの要請に応じ、「横浜縄文土器づくりの会」と協働で土器づくりの指導を実施する。 会の活動について広報を行う。 調査研究事業への協力を依頼し、実施する。
古文書を読む会との協働	古文書解読教室の修了者が中心となって活動する**「横浜古文書を読む会」**と連携し、古文書の解読講座を開催するとともに、所蔵資料を中心に古文書の翻刻をおこない、当館の出版物にその成果を発表する。また、近世史に興味のある一般の方へ向けた講演会を企画・実施する。
古代史料を読む会との協働	古代史講読講座の修了者が中心となって活動する**「古代史料を読む会」**と連携し、歴史を学ぶ一般の方へ向けた講座や講演会などを企画・実施する。
さいかちの会との協働	展示解説ボランティアの OB や現役が中心となって活動する**「さいかちの会」**と協力し、**講座や史跡の見学実習などの展示解説ボランティアのスキルアップに資する事業や研修を実施する。**
かやぶき屋根プロジェクト	大塚・歳勝土遺跡公園内の復元竪穴住居を市民ボランティアとともに茅葺屋根修繕を行う。技術については茅葺職人から指導を受けることとし、成果は修繕作業の見学や講座等により広く市民へ伝える。同公園内の都筑民家園とも連携し、茅と茅葺屋根について楽しみながら学べる機会とする。本年度より、「よこはま縁むすび講中」の事業として実施する計画である。

（６）学校連携

項　　目	内　　容
博物館利用の促進	・エデュケーターを中心に、児童生徒向けテキスト・教員向けテキストを活用し、学校の博物館利用を促進する。教員を委員とする**「小学校博物館利用研究会」、「中学校博物館利用研究会」を継続して開催し、財団の所有する各種収蔵物や資料等の教材化へ向けた研究を進めるとともに、小中学校との連携の強化を図る。** ・学校団体予約システムを新型コロナウイルス感染症対策に合わせ改良運用し、受け入れ機能の強化を図る。
訪問授業・展示解説授業	令和元年度から始めた 6 年生への訪問授業「ようこそ歴史博物館遺跡公園へ」は、博物館見学事前指導として有効であるので、より一層進めていく。
教員研修	教育委員会や小学校・中学校社会科研究会と連携して、展示を活用した学習法や体験学習カリキュラムの研修、「市の広がりと昔の暮らし」や「吉田新田の開発」など特定テーマに関する研修を実施する。
高校生研究発表会	神奈川県高等学校文化連盟との共催で社会科研究発表大会（県大

	会）を実施し、会場の提供や審査員の派遣を行う。 さらに、今年度は全国大会が神奈川県で実施される予定であるため、全国大会の運営にも積極的に協力していく。
学校内資料室の調査・整理、授業活用における対応	学校内資料室における資料調査を行い、昔のくらしなどの社会科授業や総合学習の授業に対応した整理を行う。

（７）地域や多様な組織との連携

項　　目	内　　容
都筑区との連携	・広報よこはま都筑区版に「都筑区の歴史」をテーマにした記事を隔月で連載する。
旭区との連携	・旭区にゆかりの深い鎌倉武士、畠山重忠についてパネルや小・中学生学習向け映像の制作など、普及啓発に協力する。
金沢区との連携	・金沢区と当財団が締結した「歴史文化の普及啓発に関する協定書」に基づき、文化事業などで連携を図る。
港北区との連携	・小机城をテーマとした普及啓発事業を実施する ・12 月にパシフィコ横浜で開催されるお城 EXPO において、埋文センターと連携し、小机城をはじめとする横浜市域の中世城郭を紹介する。
都筑図書館との連携	・都筑図書館と連携・共催して、郷土史展示や講演会等を実施する。
（公財）かながわ考古学財団との連携	・同財団の前年度の発掘成果を中心とする速報展**「令和 3 年度発掘調査成果速報展」（仮）**を開催する。
タウンセンター活性化検討会との連携	・都筑区のタウンセンター地区（センター南・北）の活性化について、当該地区の諸事業所ともにアイディアを出し合い、多様な企画や催しを実施する。
横浜ビー・コルセアーズとの連携	・横浜ビー・コルセアーズと協定を締結し、歴史およびスポーツ文化に関する普及啓発事業を協働で実施する。
多様な連携事業の実施	・市内の学校・大学、町内会、地区センター、市民団体、民間事業者などと随時連携し、大小の事業を実施する。

（８）広報・広聴

項　　目	内　　容
広報	・館内外の広報案内看板による広報。 ・市役所や図書館など公共施設、他の博物館や観光案内所等でのチラシ・パンフレット類の配布。 ・インターネットによる広報（ホームページ・SNS・メールマガジン発信） **・リリース配信サービスを利用した幅広い層への PR。**

	・広告掲載等による協賛金の獲得。 ・新聞・雑誌・ラジオ等マスコミへの話題提供・出演。 **・外部企業と協働した戦略的な広報の展開。** ・広報誌「横浜市歴史博物館 News」や催し物案内、パンフレット等の広報印刷物を発行。 ・市民や利用者ニーズの把握のために、アンケートやモニタリングを行い、顧客満足度と市民ニーズを把握し、評価・改善のためのデータを作成する。

（９）出版

項　　目	内　　容
出版物の刊行	・「横浜市歴史博物館資料目録」第３１集 ・「紀要」第２７号 ・「調査研究報告」第１９号 ・企画展関連出版物（図録等） **「資料目録」や「紀要」、「調査研究報告」については、電子媒体で公開する。**

（１０）博物館実習・キャリア研修等の受入

項　　目	内　　容
中学校	中学校のキャリア教育の一環として実施される職場体験について、受け入れる。
高等学校	高等学校でのキャリア教育の一環として実施されるインターンシップについて、希望する生徒を受け入れる。
大学・大学院	・博物館館務実習として学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。 ・その他、インターンシップや社会教育研修などを希望する大学生・大学院生を受け入れる。

（１１）よこはま縁結び講中事業の実施

文化庁の「地域と共働した博物館創造活動支援事業」に採択され、当館が中核館となって昨年度から実施している「よこはま縁結び講中」事業を継続して実施する。

本事業は市域の北部 4 区を対象として、エリアの各区の中心となるハブ施設として緑区：みどりアートパーク、青葉区：市民ギャラリーあざみ野、港北区：大倉精神文化研究所、都筑区：横浜市歴史博物館を設定し、それぞれの地域に存在する文化遺産を活用するイベント等の取り組みを実施するとともに、それらを対象地域の人々に情報を発信し、共有する地域文化圏の形成を図ることを目的とする。

当館では、市域北部を中心として 12 年に一度開催される「武相寅薬師」及び「都筑橘樹薬師」の御開帳に関連したプログラムと、これまで行ってきた「かやぶき屋根プロジェクト」を本事業に組み込んで実施する計画である。

（１２）開館 30 年記念事業の検討

令和 7 年（2025）1 月 31 日に開館 30 年を迎えるにあたり、同年を開館 30 年と位置づけ、記念事業の内容を検討する。

５　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）インターネットによる文化財と催事情報の発信

館蔵資料や市域指定文化財の情報を発信するほか、催事情報や図書閲覧室の蔵書検索など公式ホームページを通じて発信する。より見やすいホームページへの改修を見据えた検討に着手する。

（２）映像資料と Q&A（歴史クイズ）の公開

常設展示室内**スタディサロンでアプリを提供し、来館者のモバイル端末を利用した横浜の歴史や文化財に関する動画と、Q&A（歴史クイズ）を公開**する。

（３）情報システムの保守管理

サーバーならびにグループウェアに関わる機器類の保守管理を行う。

（４）メールマガジンや SNS の活用

メールマガジンや SNS を利用し、博物館の存在をより身近に感じるような広報を行なう。

（５）インターネット催事申込システムと学校団体予約システムの運用

市民ニーズを踏まえてインターネットを利用した催事申込システムならびに、学校団体予約システムを運用する。さらに使いやすい催事申込システムへの移行を検討する。

６　施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

歴史博物館及び野外施設について、適切かつ効率的に施設の維持管理を図ります。

（１）歴史博物館及び野外の施設維持

開館から 26 年が経過しており、経年劣化による不具合や故障に対し、各関係機関と調整を図り、**修繕等の対応を**円滑に進める。

（２）研修室・講堂等の貸出

手指消毒・利用者による清掃等の感染症対策を図りながら、施設の貸し出しを行う。

（３）区役所や周辺施設との連携を図りながら、帰宅困難者一時滞在施設として対応を行う。

７　収益事業（定款第４条第２項）

（１）ミュージアムショップの経営

鉄道展で市内 10 社の関連商品を取り扱うなど、**企画展毎に魅力ある商品を仕入れるほか、**新商品の開発に取り組み、収益の増加を図る。

一昨年度開設した**オンラインショップの取扱商品をさらに充実させる。**

（２）駐車場の運営

歴史博物館の来館者用駐車場を運営する。

昨年度に引き続き来館者の利便性を図るため、**駐車場利用時間を博物館開館時間より長い 8 時～18 時とし、キャッシュレス決済を導入する。**

（３）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、歴史博物館に自動販売機を設置し、飲料を販売する。

3　開港資料館事業

［取組の全体像］

開港資料館では、昨年度から文化庁による補助金事業「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」がスタートしました。関内エリアの文化観光拠点施設として機能強化を図っていく 5 か年計画の 2 年目にあたる今年度は、昨年度に着手した各プロジェクトを着実に進めていきます。

大きな柱となる旧館の再整備計画では、昨年度に実施した旧門番所の保存改修工事に続いて、**旧館（旧英国総領事館）の保存改修工事に向けた実施設計**をおこなうほか、敷地南側外構部分の植栽計画も進めていきます。また中庭では、長寿命化に向けた「たまくすの木」のメンテナンスを実施します。

資料収集保管事業では、文化観光拠点計画のプロジェクトとして、**将来的なデジタルアーカイブの構築に向けた館蔵資料のデジタル化**作業を進めます。調査研究事業では、財団施設や外部研究者との共同研究を積極的に進め、今後の企画普及事業等につなげていきます。

常設展事業では、文化観光拠点計画のプロジェクトとして、来館者に展示内容をより楽しんでいただくため、**多言語での「横浜開港資料館展示解説アプリ」のコンテンツ制作**を進めていきます。

企画普及事業では、近年あらたに発見された幕末の**古写真を題材に、企画展「知られざるカメラマンチャールズ・ウィード―幕末維新の日本の風景―七つの海を越えて」を開催します。**これまで当館が収集してきた古写真コレクションも交えながら、幕末維新期の国内の風景を紹介します。これらの企画普及事業では、**Twitter や YouTube などオンラインのツールを積極的に活用**して、施設と資料の魅力を伝える情報発信をおこないます。

また昨年度に引き続き、ユーラシア文化館との共催で、当館の敷地内でのスタチュー・パフォーマンスを実施し、**旧館を活用したイベントや普及事業**を積極的に進めます。そして毎年 5 月下旬に開催されるハマフェス（旧横浜セントラルタウンフェスティバル）には、今年も都市発展記念館・ユーラシア文化館とともに参加し、**地域の賑わい創出に貢献**します。

収益事業では、**文化観光拠点計画の事業と連動しながら、館蔵資料をもとにした商品開発を進め、新たに開設したオンラインミュージアムショップを活用して、自己収入の増加に努めます。**

1　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）資料の収集

項　　目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	地域の貴重な歴史資料の流出・滅失・破損を防ぐため、市民に理解と協力を求めながら、積極的に資料の寄贈・寄託を受ける。
資料購入	展示・調査研究で活用できる近代横浜の歴史に関する国内外の歴史資料、書籍等を購入する。

（２）資料の整理・公開

収集した歴史資料を、それぞれ資料群に応じた分類方法によって整理し、目録を作成して閲覧利用に供する。また、資料目録のホームページ上での公開や館蔵資料のデジタル化を中心に、**将来的なデジタルアーカイブの構築に向けての基礎作業を進める。**

項　　目	目的・内容
資料目録の作成・電子化	当館が所蔵する文書記録類（原資料・複製本）の目録を作成するとともに、電子化をおこなう。**電子化した目録は、ホームページで公開**し、資料の閲覧利用に便宜をはかる。
文書記録類のマイクロ撮影	当館が所蔵する文書記録類の保存、および原資料での収集ができない新出資料の収集のため、マイクロフィルム撮影をおこなう。マイクロフィルム撮影した一部資料については、**複製本を作成して、閲覧利用に供する。**
画像資料のデジタル化	当館が所蔵する画像資料（古地図・古写真・浮世絵・版本挿絵等）のうち、デジタル化が済んでいない資料の撮影・デジタル化を進める。

（３）資料の保管

資料は、常時温度 20～22 度、湿度 50～55％を保った収蔵庫で保管する。その他、大型の器物等資料は、外部の資料倉庫で保管する。資料の保存環境の維持管理を図るため、通年で収蔵庫や展示室、閲覧室などにおける昆虫やカビ、塵芥などの環境測定調査を実施し、劣化あるいは破損した資料は専門業者に委託して補修をおこなう。また資料防災の観点から、**館蔵資料の最適な配置計画を検討**する。

（４）資料等の貸出

収蔵資料の普及と有効利用を図るため、類似施設等での展覧会へ資料を貸し出す。

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

資料館の活動の基盤となる調査研究を、横浜の近代建築・都市計画史、近現代政治社会史、アーカイブズ学、幕末維新期の社会・生活史、近代欧米関係史等の分野にもとづき、**（１）テーマ研究（２）財団施設間での連携研究（３）外部研究者との共同研究**の 3 つの柱から継続的に実施します。

（１）テーマ研究

項　　目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜開港資料館（旧館・新館）の建築資料に関する調査研究（１／２年）	横浜開港資料館の旧館および新館の建築関係資料（図面・写真等）の調査および分析をおこなう。	旧館（イギリス総領事館）の整備にともなう図面・写真資料の調査を継続し、デジタルアーカイブでの公開に向けて資料のデジタル化と目録作成を進める
近代横浜の戦争史研究（１／４年）	終戦 80 年（2025 年）に向けた、近代以降の横浜における戦争関連資料の調査・研究	終戦80年記念企画展に向けて、財団が所有する戦争関連資料および地域に眠る資料の発掘、関係者への聞き取り調査を行い、その成果を紀要等で公開する。
横浜開港資料館アーカイブの研究	横浜開港資料館が所蔵する諸資料を閲覧公開するためのシステムを再検討	資料目録を作成し、HPで公開するとともに、アーカイブズに関する調査・研究

（１／２年）	し、より良い閲覧体制を構築するための研究	を進め、デジタルデータベース構築に向けた体制を整備する。
幕末～明治初期古写真の研究 （１／１年）	幕末～明治初期に撮影された当館所蔵古写真のうち、従来よく知られていたカメラマン（F. ベアトなど）以外の撮影者による古写真の分析を進め、この時代の横浜・日本各地の情景についてより詳細な情報を提供できるようにする。なお、本研究は東京大学史料編纂所等、外部機関・研究者の協力も得る。	横浜ともゆかりの深いふたりのカメラマン、チャールズ＝ウィード、A.A.J.ガワーが撮影した古写真（おもに当館蔵）について分析をおこない、その成果を企画展「知られざるカメラマン」と同展図録で報告する。
横浜近代欧米関係史 （１／３年）	横浜の欧米外国人社会に関する調査・研究	館蔵海外関係資料の調査研究を継続実施し、一般公開に向けた整理等の作業を進める。

（２）連携研究

複数の時代・分野に関わるテーマについて、法人が管理運営する他施設と連携した研究を行う。

①戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする研究事業を、都市発展記念館・市史資料室と連携して進める。終戦 80 年（2025 年）に向けて、各施設が所蔵する戦争関係資料についての調査を進める。

②中山恒三郎家文書の活用事業

都筑区川和町の旧家・中山恒三郎家の資料整理を、都市発展記念館、歴史博物館と連携して進めるとともに、都筑区 30 周年（2024 年）に向けて、パネル展や講演会などの連携事業を企画してその成果を公開する。

③京浜移住者に関する基礎的研究

公衆浴場を経営する地方出身者に注目し、移住者の出身地の研究者および都市発展記念館・歴史博物館と連携しながら、京浜地域における同郷者集団の形成過程を、歴史学・民俗学・考古学の手法から複合的に分析する。

④都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業

絵地図、写真、浮世絵、絵葉書、映像などの画像資料を主として、統計・文献資料などの各種歴史資料も用いて、近代都市（幕末～昭和期）の地理空間を GIS によって復元する。くわえて、横浜市域の地図の資料研究も実施する。都市発展記念館および神奈川県立歴史博物館と連携して実施する。

⑤アジア太平洋戦争期の相武地域を対象とした博学連携事業

東海大学文学部歴史学科および都市発展記念館・市史資料室と共同で、アジア太平洋戦争期の相武地域史に関する研究（軍隊・戦争と地域社会）を実施する。その成果を**東海大学との共催シンポジウム等で発表**するとともに、今後の財団事業にも活用する。

（３）外部研究者との共同調査研究

財団の専門職員だけでは実施できない調査研究を、外部の研究者と共同して行い、成果を財団の事業に反映させる。

項　　目	目的・内容	今年度の成果目標
横浜地域資料研究会(中山恒三郎研究会)	中山恒三郎家文書を中心とした横浜市北部地域の総合的な調査・研究	①中山恒三郎家文書の整理・調査 ②市内外旧家・機関所蔵資料の調査 ③中山家関係者への聞き取り調査
横浜幕末維新史研究会（１／４次）	幕末維新期横浜の政治・外交・経済・社会等について、他機関所属の研究者とともに、原資料（古文書等）をもとに総合的な調査・研究をおこない、講座・展覧会などで成果を報告する。	①横浜市内･市外所在の幕末維新期関連原資料の所在確認・調査。 ②当館所蔵の古写真（幕末維新期）の分析。撮影地の比定。 ③幕末維新期の研究者による研究報告会の開催。
横浜関係海外資料研究会（１／１年次）	館蔵海外関係資料の活用と補足所在調査	①海外関係資料の所在調査（追加） ②海外関係資料の翻刻・翻訳他

３　常設展事業　（定款第４条第１項第１号②）

（１）常設展示室（基本観覧想定数　１８，０００人 ※）

※基本観覧想定数は、コロナ禍が収束したと仮定した場合の過去の入館者を参考にした人数

常設展示室１「横浜開港への道」、及び常設展示室２「街は語る－開化ヨコハマ－」の維持管理を行う。また来館者の満足度を高めるため、多言語での**「横浜開港資料館展示解説アプリ」**の導入に向けたコンテンツ作成を進める。

また拠点計画事業で旧館をあらたな展示スペースとして活用することにともない、従来の企画展示室を、常設展示室の延長（常設展示室 3）として、あるいは小規模な企画展示が可能な展示室として、展示空間のリニューアルを検討する。

（２）旧館の活用

開港記念日を中心に**6 月を「開港月間」**として、**旧館１階の記念室（旧英国総領事執務室）を特別公開**するとともに、記念ホールを活用したパネル展示や市民参加のイベント等､旧館の施設を活用した普及事業やイベントを実施する。

また秋には､昨年度に続いてユーラシア文化館･都市発展記念館との共催事業として､**開港資料館を含む日本大通り界隈を会場とする「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」**を開催する。

旧館記念室

（３）中庭の活用

横浜の歴史のシンボルである**「たまくすの木」**、および中庭に設置している展示パネルを通じて、開港資料館の施設が建つ**「横浜開港の地」の歴史**について、来館者に広く伝える。また今後の活用に向けて、**「たまくすの木」の樹勢を維持し、長寿命化を図る**ため、横浜市関係部局と連携しながら、適切なメンテナンスを行う。

たまくすの木

（４）ミニ展示コーナー

常設展示室にミニ展示コーナーを設けて、新たに寄贈・寄託さ

れた資料や、話題性のある館蔵資料を定期的に紹介する。

展示テーマ：横浜海岸教会 150 周年、鉄道開業 150 周年など

（５）展示等事業の広報、情報発信

項　　目	内　　容
広報誌発行	館報「開港のひろば」のデザインをリニューアルし発行する（年3回予定）。
リーフレット類作成	開港資料館案内パンフレット・催し物案内を作成する。
広報	・みなとみらい線駅構内の案内看板による広報（日本大通り駅） ・新聞・雑誌・ラジオ等メディアへの記事掲載・話題提供・出演による広報 ・当館ホームページやメールニュース、展示情報掲載サイト等への情報掲載による広報 **・SNSを活用した情報発信** **・リリース配信サービスを利用した幅広い層へのPR** **・外部企業と協働した戦略的な広報の展開。** ・市内観光案内所、ホテル、横浜市PRボックス、小中高等学校、大学等へのチラシ配布

４　企画普及事業　（定款第４条第１項第１号②）

（１） 企画展の実施

※基本観覧想定数は、コロナ禍が収束したと仮定した場合の過去の入館者を参考にした人数

企画展名称（仮称）／開催期間	基本観覧想定数	目的・内容
「知られざるカメラマン チャールズ・ウィード―幕末維新の日本の風景ー」 令和 5 年 1 月 28 日（土）～3 月 12 日（日）	3,000 人	昨年、アメリカ人カメラマン・チャールズ＝ウィードが撮影した新出の大判（マンモスプレート）古写真の存在が明らかになった。本展では当館が所蔵するウィードの古写真もあわせて、「知られざる」カメラマンが写した幕末維新期の日本各地の風景を紹介する。くわえて、当館が所蔵するアマチュアカメラマン A.A.J. ガワーによる幕末明治期の古写真も展示する。

（２）講座・講演会ほか

項　　目	目的・内容
企画展関連講座・講演会の実施	企画展の開催にあわせて、外部講師を招いての講座・講演会や、見どころをわかりやすく紹介する展示解説を実施する。 ＊開催にあたっては、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、**対面もしくはオンラインでの開催**を検討する。
連続講座の開催	**当館の調査研究員がそれぞれの専門分野から研究の最前線を紹介する連続講座を新規に開催する（年5回予定）。講座は対面での実施のほか、有料でのオンライン配信も予定する。**
オンラインツールを活用した普及事業	**YouTubeチャンネルでの解説動画**の制作・公開を通じて、横浜の歴史や館蔵資料に関する情報発信をおこなう。

市民団体との共催事業の実施	市民団体との共催事業として、講座等を実施する。
横浜市職員向けの講座・見学会の実施	横浜市職員を対象に、横浜の歴史および当館の事業に対する理解を深めてもらうため、企画展に応じて講座や見学会を実施する。
大学・研究機関等との連携事業	大学・研究機関等との連携事業として、共同の調査研究事業にもとづいた講座・講演会・シンポジウム等を実施する。

（３）出版物の作成

資料収集や整理、調査研究、企画展などの資料館事業の成果を広く市民に紹介するため、各種出版物を作成し頒布する。また、需要の多い在庫切れ出版物を増刷する。

＜出版予定＞

①広報誌　館報「開港のひろば」のデザインをリニューアルし発行（年3回予定）。

②研究紀要の発行　『横浜開港資料館紀要』第39号

紀要については、電子媒体（PDF）による公開準備を進める。

③企画展関連の出版物・印刷物の発行

『知られざるカメラマンチャールズ・ウィード』（2023年2月発行予定）

（４）資料閲覧室の運営

閲覧室において、原資料もしくは複製本の形で収蔵資料を一般閲覧に供し、横浜の歴史および資料に関する一般からの問い合わせに対して、専門職員によるレファレンス・サービスをおこなう。

（５）複製資料の提供

市民や地方自治体、学校、企業（出版社、新聞社、テレビ局など）の求めに応じて、所蔵資料の複製（デジタルデータ）を提供する。これにより資料情報の発信を促進する。

利用目標件数　400 件　／　利用目標資料点数　1,200 点

（６）市民協働・学校連携・博物館連携　他

（ア）横浜郷土史団体連絡協議会の活動への支援

郷土史に関心を持つ団体が情報交換し、広範な活動ができるように、当館が中心となって設立した**横浜郷土史団体連絡協議会（現在、市内 44 団体）**とともに、協働事業（講座・研修会等）を展開していく。事務局は当館と歴史博物館の職員が担当する。

（イ）学校・研究団体、ＮＰＯ法人、企業・商工団体、ボランティアガイド団体等との協働事業

地域事業者の団体（山下公園通り会、元町 SS 会、横浜中華街発展会、馬車道通り会など）との連携事業として、毎年 5 月下旬に開催される**ハマフェス（旧横浜セントラルタウンフェスティバル）**に都市発展記念館・ユーラシア文化館とともに参加して、**地域の賑わい創出に貢献**する。当日は無料開館とし、資料館活動への理解促進と来館者増をはかる。

（ウ）主要な高等学校との連携として、神奈川県内の公私立高等学校の社会科関連のクラブによって構成される**神奈川県高等学校文化連盟（神奈川県高文連）**の社会科専門部会と提携し、展示見学の受け入れ、研究会場の提供、研究活動への助言等をおこなう。

（エ）広報よこはま中区版で連載中の「中区歴史の散歩道」等、市役所や中区をはじめとする各区との連携・協力を進めていく。また、横浜港振興協会とは同会機関誌に横浜の歴史に関する記事を掲載するなど関係を強化する。

（オ）首都圏形成史研究会などの学術団体と連携する。

（カ）神奈川県博物館協会や神奈川県歴史資料取扱機関連絡協議会など業界団体と連携する。

（７）外部組織への資料提供および助言・監修

（ア）マスコミ等への企画協力・情報提供

新聞社・テレビ局・ラジオ等が企画する記事・番組への監修協力や情報提供・出演を行う。

（イ）助言・監修

公共施設や企業へ資料を提供するとともに、その作成物について助言・監修を行う。

（８）学芸員実習

学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。受入数：８名

（９）各種情報のホームページ・SNS などによる発信等

（ア）ホームページ・SNS による情報発信

ホームページや公式 Twitter を通じて、新規閲覧公開資料や開館時間、アクセス、企画展示や講座、出版、イベントなど、最新の資料館情報を提供する。あわせて所蔵古文書の目録を順次ホームページで公開する。

アクセス目標件数　120,000 件

（イ）メールニュースによる情報発信

企画展示、講座などの催し物情報を希望者にメールニュースで発信する。

発信先：約 1,400 件

（ウ）ＯＰＡＣによる蔵書（新聞・雑誌も含む）検索機能、およびイントラネットによる他機関データベースへのアクセス・閲覧機能の充実

Twitter での情報発信

YouTube での解説動画の公開

５　旧館活性化事業

開港資料館にとって館蔵資料とならぶ**重要な歴史資産である旧館（旧英国総領事館）および旧門番所の建物（いずれも横浜市指定文化財）を、関内エリアのあらたな観光拠点としてより幅広く活用していく**ために、総合的な再整備計画を実施します。多様な来館者を受け入れることを前提に、内装の修繕やバリアフリー化、案内サインの改修や花壇の整備など、幅広い視点で整備計画を検討します。

（１）旧館改修工事に向けての準備

令和 3 年度に実施した建物の劣化調査をふまえ、次年度着工予定の旧館改修工事に向けて、実施設計

と耐震診断を実施する。また市指定文化財の現状変更申請に向けて、市の関係部局と協議をおこなう。

（２）外構計画の検討

上記と連動する外構部分の工事に関して、令和３年度に実施した敷地南側外構部分のスロープ設置をふまえて、その他植栽や駐車場、キュービクル周辺の整備計画を検討する。

（３）旧館を活用したイベントの実施

記念室（旧英国総領事執務室）の特別公開をはじめ、敷地内でのスタチュー・パフォーマンスなど、歴史ある旧館の雰囲気を活かした各種イベントを実施する。

（４）中庭の整備

横浜の歴史のシンボルである「たまくすの木」の樹勢を維持し、長寿命化を図るため、横浜市関係部局と連携しながら、適切なメンテナンスを行う。

敷地内でのスタチュー・パフォーマンス

６　施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

施設の老朽化が進んでいるため、優先度の高い改修項目を見極め、上記の旧館活性化事業と連動しながら、計画的な修繕を実施することで施設の保全を図ります。

７　収益事業（定款第４条第２項）

（１）ミュージアムショップの経営

開港資料館のミュージアムショップにおいて、展示図録、資料目録、研究紀要、関連図書、グッズ等の販売を行うとともに、文化観光拠点計画の事業とも連動しながら、**館蔵資料をもとにした商品開発**を進める。また、これまでの通信販売に加えて、令和３年度に立ち上げた**オンラインショップ**を活用し、販路の拡大と売上の向上を見込む。

（２）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、敷地内に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

８　拠点計画推進課事業

令和３年度に文化庁より認定を受けた「横浜開港資料館における文化観光拠点計画」に基づき、補助金の交付対象として次の「横浜開港資料館文化観光拠点化推進事業」を実施します。

（１）「横浜開港」資料のデジタルアーカイブ整備公開推進事業

デジタルアーカイブの構築とコンテンツの作成を中心に以下の事業を実施する。

①観光活用を前提としたデジタルアーカイブの構築／②デジタルアーカイブ用高精細画像の作成／③収蔵資料目録・レファレンスデータのデジタル化

（２）旧館展示「横浜開港の記憶」制作事業

旧館修繕計画とあわせて展示の令和５年度の実施設計に向けた準備を進める。

①旧館各室の展示詳細設計／②旧館展示の基本構想に関するアンケートの実施

（３）旧英国総領事館レクチャーツアー事業

旧館修繕計画とあわせてレクチャーツアー計画を検討する。

①旧英国総領事館レクチャーツアー内容の再検討／②モニターツアー実施によるパッケージ内容の確認／③共同申請者が企画するツアーへの対応

（４）オンライン「横浜開港」コレクション解説配信事業

配信テーマの検討およびテスト撮影・編集、作品を随時公開する。

①オンラインコレクション解説撮影・編集／②オンラインでの配信とアクセス状況の分析／③有料配信コンテンツについての多方面からの検討

（５）旧英国総領事館夜間公開事業

照明設備の点検や新設の検討、他事業と連携したライトアップを活用した企画をおこなう。

①ライトアップ企画や追加照明設備の検討／②ライトアップ実施と SNS での情報発信／③共同申請者や民間事業者との取組の検討

（６）旧英国総領事館フォトジェニックスポット推進事業

本格的な活用を踏まえた撮影規定類の整備と、フォトジェニックなスポットとしての幅を広げるためのテスト企画を検討、実施する。

①各種の撮影規定類の整備の検討／②デモ写真を活用した情報発信とテスト企画の検討・実施

（７）多言語アプリケーションの整備事業

多言語情報提供コンテンツの検討・作成を進める。

①多言語情報提供アプリケーション等の開発／②コンテンツの検討・作成

（８）訪日客に対応する多言語ウェブサイトの再構築事業

（７）と連動し多言語情報提供コンテンツの発信を進める。

①多言語ウェブサイトのリニューアル

（９）横浜伝統的観光地時空文化観光ウェブコンテンツの開発事業

提供するウェブコンテンツ作成等の基盤整備事業を自己資金にて実施する。

①提供コンテンツの検討／②コンテンツ（口述調査・テキストデータ・動画データ等）の作成

（１０）伝統的観光地エリア内ガイドツアー事業

既存案内板の設置を進め、モニターツアーを実施する。

①伝統的観光地エリア内のモニュメント等の現状調査・新規設置／②モニターツアー実施によるパッケージ内容の確認

（１１）「横浜開港」資料の商品化事業

オリジナル商品開発、歴史資料の画像活用に向けたコンテスト等の開催企画を進める。

①試作商品開発とブランド化戦略の検討／②利用促進施策の検討

（１２）「食べて楽しむ・買って楽しむ」施設機能拡充事業

旧館修繕計画とあわせて検討・作成、改修工事を実施する。

①改修工事の実施による機能拡充／②オリジナルスイーツ開発委託

（１３）野外ミュージアム PR 事業

野外ミュージアムの PR に資するイベントを企画・実施する。

①伝統的観光地エリア回遊に向けたイベントの企画・検討／②イベントの実施

（１４）「横浜開港」プロモーション戦略事業

令和３年度の文化庁のコーチング支援のアドバイスを受け、基本となるターゲットや計画に基づく運営のコンセプトを定める。

①策定したターゲット・運営コンセプトに基づく既存の広報 PR の取組の見直し／②ターゲットを踏まえた PR の検討

（１５）公衆 Wi-Fi 情報通信機器環境整備事業

旧館修繕計画ほか、館内の整備に合わせた公衆 Wi-Fi を追加で導入する。

①回線工事・導入／②他事業との連携の検討

（１６）旧英国総領事館等再整備事業

旧館の修繕工事および関連業務を実施する。

①横浜開港資料館旧館の修繕工事／②旧館のバリアフリー化に向けた検討／③旧英国総領事館付属棟の内装仕上げ工事

４　都市発展記念館事業

［取組の全体像］

横浜都市発展記念館では、昭和期横浜の歴史を中心に資料収集、調査研究、企画普及等の事業を進めてきました。今年度の企画展事業は、今年が**鉄道開業 150 周年**であることから、**横浜の都市形成にとって大きなテーマである鉄道を軸に展開します。**第 1 回企画展「激震！鉄道を襲う」では、関東大震災で打撃を受けた横浜の交通網が、復旧・復興に至るまでをたどります。そして第 2 回企画展では、鉄道開通から 150 年の歩みをたどり、都市横浜の歴史のなかで鉄道が果たしてきた役割を振り返ります。

常設展事業では、コーナー展示を活用して、企画展で取り上げられる機会の少ない館蔵コレクションを紹介していきます。また**当館の魅力をアピールする広報動画を制作し、デジタルサイネージのコンテンツとして発信していきます。**

資料収集保管事業では、昨年度に続けて、**戦後の映像資料「神奈川ニュース」を YouTube チャンネルで公開し、戦後資料のさらなる公開を進めます。**また**将来的なデジタルアーカイブの構築**に向けての基礎作業として、当館の戦後写真コレクションの画像資料目録の整備を進めます。

調査研究事業では、**2025 年の終戦 80 年での事業化を見据えて、横浜開港資料館・横浜市史資料室と連携した戦前・戦後期の都市横浜に関する研究を進めていきます。**また外部研究者との共同研究も積極的に進め、昭和期横浜の歴史を多面的に分析して、今後の企画普及事業等につなげていきます。

学校連携では、従来の小学 4 年生の吉田新田学習に加えて、小学 3 年生の学習内容に「横浜市の移り変わり」が組み込まれたことを受けて、財団エデュケーターや小学校社会科研究会と連携して、教員向けのあらたな研修内容を検討します。

地域連携では、横浜ユーラシア文化館・横浜開港資料館とともに、**山下公園通り会や日本大通り活性化委員会などの地域事業者による集客イベントに参加することで、地域の賑わい創出に貢献していきます。**

施設管理では、令和 5 年度に予定されている空調設備更新工事に向けて、市の関係部局と調整しながら準備を進めていきます。

収益事業では、館内のミュージアムショップに加えて、新たに**開設したオンラインショップと SNS を連動させながら**、魅力的な商品開発をおこない自己収入の増加に努めます。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

昭和期を中心に、都市横浜のあゆみに関する資料を収集するとともに、ホームページを利用して画像資料の公開を進めます。

（１）資料の収集と保管

項　　目	目的･内容
資料の寄贈・寄託	昭和期を中心に「都市形成」、「市民のくらし」、「横浜の文化」に関する資料が散逸しないように、開港資料館･市史資料室と連携して地域に残る資料を発掘し、積極的に寄贈・寄託を受け入れる。
資料購入	昭和期を中心に「都市形成」、「市民のくらし」、「横浜の文化」に関する資料を収集する。
複製による資料収集	原資料で収集できないものをデジタル撮影・マイクロフィルム撮影等により収集する。
資料修繕	傷みの激しい資料は専門業者に委託して修復を行う。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。収蔵庫に収まらない器物等の大型資料は、外部倉庫を賃借して保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査をユーラシア文化館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

（２）資料の整理・公開

収集した資料はそれぞれ資料群に応じた分類方法によって整理し、目録を作成する。また、館蔵資料から絵葉書･古写真・地図・ちらしなど画像資料のデジタル化を進め、ホームページ上の「絵葉書データベース」「地図データベース」や「横浜歴史情報マップ」などで積極的に公開する。映像資料では、引き続き、**YouTube チャンネルで戦後のニュース映像「神奈川ニュース」の公開を進める。**

将来的なデジタルアーカイブ構築に向けた基礎作業として、引き続き、**当館の戦後写真コレクションである五十嵐英壽・奥村泰弘・常盤とよ子の撮影写真の画像資料目録の作成を進める。**そして画像資料以外の文書・記録類についても、概要をホームページで紹介し、資料の利用促進を図る。

（３）複製資料の提供

複製資料（所蔵資料の画像データ）を提供し、出版・放送・展示や市民の学習など、各種用途での利用に応じる。

横浜地図データベース

「神奈川ニュース」セレクション

２　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

昭和期横浜の歴史を中心に、都市形成史、都市経済産業史、都市生活・文化史等の分野にもとづく調査研究をおこない、その成果を事業に活用します。（１）は各テーマにもとづく基礎資料の調査・収集を目的とし、（２）は財団諸施設や外部研究者との連携により調査研究を深めることを目的とし、その成果は展示や出版事業で活用します。

（１）調査研究

項　　目	目的･内容	今年度の成果目標
震災復興と「大横浜」の形成に関する調査研究（１／２年次）	関東大震災後から第 2 次世界大戦に至る時期の横浜の都市形成史を政治社会史の視点から明らかにする。	横浜の震災復興、「大横浜」の形成過程を写真家･前川謙三のライフヒストリーに焦点を当てつつ調査し、次年度の企画展に反映させる。
横浜近郊農村の都市化に関する調査研究（１／４年次）	高度経済成長期までを視野に入れつつ、横浜近郊農村の都市化の過程を政治社会史の視点から明らかにする。	都筑区川和町の中山恒三郎家資料の整理・調査を進めると同時に、東横線沿線の地域（旧橘樹郡の村々）について基礎的な調査を進める。
京浜工業地帯の形成史に関する調査研究（１／４年次）	京浜工業地帯の形成と、その後の展開について、政治・経済・文化の視点から多角的に明らかにする。	2027（令和 9）年の神奈川区・鶴見区の区制 100 年を見据えつつ、資料等に関する基礎調査を実施する。
横浜の近代遺跡に関する調査研究（１／４年次）	市域での近代建築の遺構および出土遺物の調査を通じて、近代遺跡の視点から横浜の特性を明らかにする。	市域での出土遺物のうち、山手 133 番地出土遺物について拓本･実測による記録化と内容分析を進める。
横浜地図データベースの構築（１／３年次）	過年度の開港資料館･市史資料室との連携事業の成果をもとに、横浜とその周辺の地図について調査と分析を進め、悉皆的なデータベースを構築する。	地図の高精細デジタル画像のデータベース拡充を継続する。成果はホームページ「横浜地図データベース」等にて公開し、連携研究事業③の基礎資料とする。

昭和期「ヨコハマ」の観光とイメージに関する調査研究 **（１／４年次）**	昭和期を中心に(1)横浜の都市観光およびその宣伝、(2)都市イメージの形成に関する資料の収集・整理・分析を進め、その特質を考察する。	観光・旅行関係資料（個人コレクションより絵葉書・紙票類、ホテルニューグランド所蔵資料等）の整理と分析、映像資料（横浜市広報動画等）のデジタル化と分析。

（２）連携研究事業

複数の時代・分野に関わるテーマについて、当財団が管理する諸施設および外部研究者との連携研究を実施する。

（ア）戦中・戦後期の都市横浜に関する連携研究事業

戦争の時代から戦災復興を経て、高度経済成長へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を、市史資料室・開港資料館と連携して進める。終戦 80 年（2025 年）に向けて、各施設が所蔵する戦争関係資料についての調査を進める。

（イ）外部研究者との連携研究事業

①中山恒三郎家文書の活用事業

都筑区川和町の旧家・中山恒三郎家の資料整理を、開港資料館・歴史博物館と連携して進めるとともに、都筑区 30 周年（2024 年）に向けて、パネル展や講演会などの連携事業を企画してその成果を公開する。

② 京浜移住者に関する基礎的研究

公衆浴場を経営する地方出身者に注目し、移住者の出身地の研究者および開港資料館・歴史博物館と連携しながら、京浜地域における同郷者集団の形成過程を、歴史学・民俗学・考古学の手法から複合的に分析する。

③ 建築家中村順平に関する基礎的研究

横浜高等工業学校建築科（現・横浜国立大学工学部建築学科）の主任教授を務めた建築家中村順平に関する資料の収集・整理を、外部研究者と連携して実施する。

（ウ）都市横浜「歴史空間」復原への調査研究事業

絵地図、写真、浮世絵、絵葉書、映像などの画像資料を主として、統計・文献資料などの各種歴史資料も用いて、近代都市（幕末～昭和期）の地理空間を GIS によって復元する。開港資料館および外部機関（神奈川県立歴史博物館など）と連携して実施する。

（３）研究紀要の発行

調査研究成果をまとめて『横浜都市発展記念館紀要』第 18 号を発行する。

紀要については、電子媒体（PDF）による公開を順次実施する。

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）常設展示の運営と展示設備の維持管理をおこなう。**（基本観覧想定数　１６，０００人 ※）**

※基本観覧想定数は、コロナ禍が収束したと仮定した場合の過去の入館者を参考にした人数

（２）「旧横浜市外電話局」の積極的な公開・活用をおこなう。

ユーラシア文化館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関を活かした展示・集客事業を展開する。また無料開館日のイベントとして、普段は入れない箇所の見学を含めた館内ツアーを実施する。

（3）常設展示室の一画を使って、**新収蔵資料や話題性のある館蔵コレクションを中心としたコーナー展示**を開催する。

（4）来館者の満足度を高めるため、多言語での**「横浜都市発展記念館展示解説アプリ」**の導入に向けたコンテンツ作成を進める。

（5）**都市発展記念館の魅力をアピールする広報動画を制作し、デジタルサイネージのコンテンツとして、施設入口や常設展示などで発信する。**

4　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

（1）企画展

※基本観覧想定数は、コロナ禍が収束したと仮定した場合の過去の入館者を参考にした人数

展示名称（仮称）／開催期間	基本観覧総定数	目的・内容
「鉄道開業 150 周年 激震、鉄道を襲う！―関東大震災と横浜の交通網ー」 令和４年３月 12 日（土）～7 月３日（日）※Ｒ３より継続開催	4,000 人	神奈川県を震源とするマグニチュード 7.9 の地震は、南関東一帯に大きな被害を与えました。横浜市も激しい揺れに襲われ、交通網は壊滅的な打撃を受けます。本展示では、当時の写真を中心に、横浜の交通網、鉄道の被災から復旧、復興に至る過程を追いかけます。
「鉄道開業 150 周年」（仮） 令和４年８月６日（土）～11 月６日（日）	3,000 人	京浜間に日本最初の鉄道が開業して 150 年になるのを記念し、貿易港・工業地帯・ベッドタウンとして発展した都市横浜の歴史において、鉄道の果たしてきた役割を振り返ります。

（2）普及啓発

項　　目	目的・内容
月イチ講座	ユーラシア文化館と共催で、新収資料や最新の調査成果などを紹介する講座を１階ギャラリーで開催する。 ＊開催にあたっては、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、**対面もしくはオンラインでの開催**を柔軟に対応する。
オンラインツールを活用した普及事業	**Twitterでの資料紹介やYouTubeチャンネルでの解説動画**の公開を通じて、展示内容や収蔵資料に関する情報発信をおこなう。
写真パネル展の開催	**１階ギャラリーや旧第一玄関を活用して、展示関連の写真パネル展などを開催し、新規来館者層の獲得につなげる。**
市職員向けの講座・見学会の開催	横浜市職員を対象に、横浜の歴史および当館の事業に対する理解を深めてもらうため、企画展に応じて講座や見学会を実施する。
ワークショップの開催	**活動支援ボランティアの参加を得て、企画展や昭和の時代に関連したワークショップを実施する。** ＊開催にあたっては、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、柔軟に対応する。

オンライン展示解説

ＳＮＳを活用した情報発信

（３）集客イベント

項　　目	内　　容
ハマフェスY163（旧横浜セントラルタウンフェスティバル）	5月下旬に開催されるハマフェスY163にユーラシア文化館・開港資料館とともに参加し、元町SS会、横浜中華街発展会、馬車道通り会などの地元商業団体と連携して、地域の賑わい創出と来館者増を図る。 また同日は、ユーラシア文化館が主催する「横浜ユーラシア・スタチューミュージアム」の会場として、スタチュー・パフォーマンスを提供する。
「開港記念日」市民優待デー	6月2日の開港記念日を無料開館日とし、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施する。
開館記念イベント	ユーラシア文化館との共催で、3月15日の開館記念日前後に無料開館日を設けて、市民感謝イベントを実施する。

（４）市民協働

項　　目	内　　容
ボランティアとの協働	企画展開催中の週末および開館記念イベント等の機会に、**活動支援ボランティアの参加を得て、各種ワークショップを実施**する。 ＊開催にあたっては、新型コロナウイルスの感染状況を見ながら、柔軟に対応する。

（５）地域・行政との連携

項　　目	目的・内容
地域事業者との連携	・日本大通り界隈の事業者が加盟する**日本大通り活性化委員会**に参加し、**日本大通り周辺の賑わい創出および横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館への観光客の誘致**を図る。 ・山下公園通りの事業者が加盟する**山下公園通り会**の事業に参加し、**山下町周辺の賑わい創出および横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館への観光客の誘致**を図る。

区役所・市役所が実施する事業への協力	・中区に関する歴史資料を紹介する記事を「広報よこはま なか区版」に開港資料館と共同で連載する。 **・横浜市消防局と連携しつつ、アジア消防長協会・全国消防長会総会（IFCAA 2022 YOKOHAMA）関連のパネル展「横浜消防の近代史」を実施する。**

（６）学校連携

項　　目	目的・内容
市内学校団体見学の受け入れ	小学校４年生を対象に、「吉田新田とその後」をテーマにした解説つき展示案内を実施し、市内学校団体を誘致する。
教員向け研修の企画	小学校の教員を対象に「吉田新田とその後」(4年生)**「横浜市の移り変わり」（3年生）**をテーマとした研修を企画、実施する。
学校連携事業	法人エデュケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、学習指導に適した教材などのレファレンスを行う。

（７）広報活動

項　　目	内　　容
広報誌発行	『ハマ発Newsletter』の編集・発行 （第３７～３８号、各１０，０００部）
印刷物作成	企画展示案内（ポスター・チラシ)、「催し物案内」（リーフレット）の作成
ホームページの運営	ホームページを利用して最新情報の案内、展示内容の紹介、所蔵資料の画像データの公開などをおこなう。 アクセス目標件数　３０，０００件
メールニュースの配信	希望者に最新情報の案内をメールで配信する。
SNSによる情報発信	**公式Twitterを活用して、館の魅力や資料案内、職員の活動などを日常的に発信する。**
デジタルサイネージによる広報動画の配信	**都市発展記念館の魅力をアピールする広報動画を制作し、デジタルサイネージのコンテンツとして、施設入口や常設展示などで配信する。**
マスコミ対応	・放送（テレビ、ラジオ等)、新聞・雑誌（タウン誌などを含む）の取材対応と情報の提供 ・フィルムコミッションへの協力 ・広告の掲出（新聞・雑誌、地下鉄車内など）
外部機関との提携	・鉄道駅構内へのポスター掲出、チラシ等配置 ・観光案内所、ホテル、旅行代理店などへの印刷物配布 ・観光・地域振興等関連団体への参加 日本大通り活性化委員会・山下公園通り会での活動、ハマフェスY163などへの参加
市民ニーズの把握	実施事業ごとにアンケート調査を行い、利用者の満足度と市民ニーズの把握を行う。

（８）実習生・研修生の受け入れ

項　　目	内　　容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。４名。
職場体験	市内中学生の職場体験の受入。

５　施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

横浜都市発展記念館については、これまでと同様適正な維持管理に努めてまいります。
令和５年度の空調設備更新工事（長寿命化工事）に向けて、横浜市建築局にて設計実施。
展示室除湿機新規設置工事実施に向け、横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課と調整。

６　収益事業（定款第４条第２項）

（１）ミュージアムショップの経営

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵資料の複製等の販売を行う。

立ち上げたオンラインショップと SNS(Twitter・YouTube)を連動させ相互の閲覧を促進させるとともに、収益の向上を図ってゆく。

（２）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館に飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

５　ユーラシア文化館事業

［取組の全体像］

ユーラシア文化館は、国際文化都市横浜の多文化共生社会の進展のために、市民のユーラシア文化への理解促進に寄与するため、調査研究、研究、展示、出版、講演会、イベントなどを実施しています。

常設展示室では、企画展などと連動させて**スポット展示を実施していきます。企画展は、未公開の**江上コレクションや新収資料などの館蔵品の魅力を伝える収蔵品展を開催します。また、アウトリーチを広げて、民間団体と連携しながら、出張展示**を開催します。**調査研究では、ユーラシア地域における東西文化交流や多文化共生都市としての横浜の歴史や文化に関わる調査研究を進めていきます。

学校との連携では、定着した４年生の学校団体見学に加え、引き続き、モンゴルの部屋コーナーを有効に活用し、**モンゴル童話を教材にしている低学年の見学を推進していきます。また展示を活用し、美術・歴史関係で学校との連携を深めます。**

ユーラシア文化に関わる市民向けの講演会を開催すると共に、**１階のフリースペースや中庭や旧第一玄関などを活用し、講座やミニ展示、ワークショップ、写真展など各種のイベントを開催し、市民の方が親しみながらユ―ラシア文化の理解を深める場としていきます。また、館内での活動にとどまらず、地元諸団体と連携し、街を舞台として、横浜とユーラシア地域の歴史と文化の普及に資する事業を推進していきます。**なお、これらの普及

啓発事業では、新型コロナウイルスの感染拡大の状況を見ながら、開催していきます。

1　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）資料収集・保存

項　　目	目的・内容
資料の寄贈・寄託	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
資料購入	展示で活用しうる資料や、調査研究に資する資料を収集する。
資料の保管	資料は温湿度を一定に保った収蔵庫で保管する。所蔵資料の情報はデータベースに入力し管理する。
資料修繕	文献・資料の修復を行う。
環境調査	保存環境を良好な状態に保つため、展示室・収蔵庫の環境調査を都市発展記念館と共同して定期的に行う。また資料保存に関する最新の知見を入手することに努める。

（２）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討、整理し、館蔵資料データベースを拡充する。

（３）文献資料の整理

考古・美術資料と並ぶ所蔵資料の柱である文献資料の公開に向け、整理・分類を継続する。整理が終わったものから順次公開していく。

項　　目	目的・内容
バジル・グレイ旧蔵書・洋図書・洋雑誌・和図書	蔵書の分類を継続する。
寄贈及び購入の図書、雑誌	**書誌データを入力し、**データベースを構築する。インターネットでの蔵書検索（ＯＰＡＣ公開）を拡充する。

2　調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）調査研究

項　　目	目的・内容	今年度の成果目標
ユーラシアにおける陶器の研究（２／２年）	中央アジアの陶器や刺繍などの工芸品とそこに関わる人々の歴史、日本との関係について調査する。	①国内博物館等で所蔵するウズベキスタンの陶器、刺繍資料を調査する。 ②ウズベキスタンと日本の工芸品を通した文化交流の過程を記録する。 ③伝統技術に関する情報を収集する。
ユーラシアの東西交流の研究（２／３年）	14 世紀後半以降の東西交流の歴史を探る。	① モンゴル等遊牧民の歴史や生活文化に関わる資料を調査する。

ユーラシアにおける芸能の研究 （2／3）	ユーラシア大陸における大道芸やサーカスなどの歴史について、日本列島との関係も考慮しつつ、広い視野での研究を行う。	① 国内施設が所蔵するサーカス・芸能関連資料の調査を行う。 ② スタチュー芸をはじめとする、各種の演目の歴史について先行研究を調査する。
ユーラシアにおける人形製品の研究（2／5）	宗教や儀礼に関わる遺物として注目されてきた人形製品（土製品・石製品等）について、比較考古学的な観点からの研究を行う。	① 財団機関が所蔵する人形製品を調査する。 ② 国内機関に所蔵されているユーラシア各地出土の人形製品の情報を収集し、調査する。
ユーラシア概念をめぐる研究（２／５年）	「ユーラシア」の概念や、ユーラシア諸地域の文化交流について研究会を開催し、その理解を深める。 **歴史博物館との連携事業**	①両館学芸員を中心に、2回程度の研究会等を開く。 ②研究会の成果を紀要等に公開する。
横浜市内の外国系市民の歴史文化に関する研究（１／５）	横浜に暮らす様々な国籍や民族の人びとの歴史、風俗などに付いて研究し、市民の多文化共生への理解を促進する。	①個人・機関が所蔵する関連資料の調査。 ②企画展の実施 ③研究成果を展示や館の広報物で発信する。
令和５年度以降開催予定の企画展調査	令和５年度以降の企画展開催のために資料調査などを行う。	

（２）資料の整理

資料の公開に向け資料群に応じた適切な分類方法を検討し、整理を行うとともに、順次資料画像などをデジタルアーカイブズで公開する。

３　常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

（１） 横浜ユーラシア文化館の常設展示室の維持管理を行う。**（基本観覧想定数　１５，０００人　※）**

※基本観覧想定数は、コロナ禍が収束したと仮定した場合の過去の入館者を参考にした人数

（２）**ニュース性、企画展示とのつながり、関連機関との連携、市の施策を考慮に入れた展示替えを行う。**

（３）クイズラリーやスケッチなど常設展示室での**ミニイベントを企画**する。

（４）常設展示室を活用し学校との連携を試行的に行っていく。また、グローバル人材育成として、教育委員会の進める高校生のグローバル人材育成プログラムに協力していく。

（５）**月イチ講座に関連した資料の展観、研究成果としての収蔵資料の特別公開、市民寄贈資料のお披露目展示、大学教育と連携した資料展示など、常設展示室を利用したスポット展示を行う。**

（6）**都市発展記念館と連携して、歴史的建造物としての魅力を残す旧第一玄関、新たに整備した中庭などを活かした企画を実施し、常設展示室の集客につなげる。**

R3 年度特別展「オホーツク文化―あなたの知らない古代」ニコニコ美術館による展示配信

4　企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）企画展

※基本観覧想定数は、新型コロナウイルス感染症による影響がないと仮定した場合の過去の入館者を参考に想定した観覧者数。

今年度は企画展示室内の空調設備状況が不安定なため、外部から資料を借用する展示は行わず、収蔵資料展を１回開催するとともに、市内民間施設などでの出張展示を計画している。

企画展名称（仮称）／開催期間	基本観覧想定数	目的・内容
令和４年度第１回企画展「横浜ユーラシア文化館収蔵資料品展」 会期：令和４年秋を予定	4,000人	これまで展示公開してこなかった江上波夫コレクションの資料や、近年寄贈を受けた収蔵品を紹介する。
アウトリーチ展示「横浜中華街の歴史と文化」（仮称）ほか。 会期：未定		Ｒ３に実施し好評であった「横浜中華街 160 年の軌跡」展の内容を縮約したパネル中心の展示を、横浜中華街の一般公開スペースで実施し、中華街の歴史文化の普及と館の周知をはかる。また、館所蔵資料の民間施設などでの展示も検討していく。
企画展関連ギャラリートーク	各回 15 人	企画展に対する興味と理解を深めることを目的として、展示解説を行う。無料

（２）講座・講演会等

項　　目	内　　容
月イチ講座	**市民が参加しやすいミニ講座**で研究成果を定期的に紹介する。 都市発展記念館との共同事業。＊新型コロナウイルスの感染拡大状況を見ながら開催する。
動画・SNS等の発信について	Twitterアカウント（2019年10月～）およびYouTubeチャンネル（2020年3月～）、Facebook（2021年4月～）を通じた情報発信を行う。

（３）普及啓発

項　　目	参加者目標数	目的・内容
馬頭琴コンサート	1回実施、各回50人	モンゴルの伝統的な楽器である「馬頭琴」の演奏会、民族衣装の試着などを通し、**モンゴル民話を学ぶ小学２年生をはじめ、多くの市民に異文化を体感し、理解を深め**

		る。
ワークショップの開催	各回30人	１階フリースペースを活用し、企画展や館蔵品に関連したもの作りワークショップを実施。**参加者には市民ボランティアが対応する。**＊新型コロナウイルスの感染拡大状況を見ながら開催。
写真展・写真パネル展の開催	企画展来館者数	**旧第一玄関などを会場に、企画展等に関連した写真展などを開催し、ユーラシアへの興味・関心を定着させる。**
横浜市職員向けの研修	各回30人	市職員を対象に、館の事業・活動に対する理解を深め、今後の業務に活用できるよう、研修会を実施（関係局との連携）。
近隣企業との連携		**横浜中華街や日本大通りの店舗とタイアップし、広報活動の充実と連携企画を実施していく。**

（４）集客イベント事業

項　　目	内　　容
ミニコンサート、大道芸	ユーラシア諸地域の文化に親しめるような民族音楽のミニコンサートや大道芸を開催。企画展開催時または各種イベントの一環として実施する。特に令和3年度に続き、スタチュー・パフォーマンス協会と共催で、スタチュー（人間彫刻）に特化した大道芸イベントとして「横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム」を11月19日（土）・20日（日）に開催する。
ハマフェスY162（旧横浜セントラルタウンフェスティバル）	**5月28日（土）・29日（日）に関内・日本大通り・中華街・元町で大規模に開催されるイベントに参加し、無料開館・スタンプラリーを実施する。また同日、館内、横浜開港資料館、日本大通り、山下公園通りなどを会場に、小規模な**横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアムを開催する。
「開港記念日」市民優待デー	**6月2日の開港記念日に無料開館し、学校が休みとなる小学生向けのワークショップなどを実施する。**
開館祭	都市発展記念館との連携事業として、3月15日の開館日前後に全館無料の**感謝イベントを実施し、市民サービスを供する。**
近隣イベントへの参加	**日本大通りなどで開催されるイベントに参加し、当館の認知度アップと集客に努める。**

第 2 回横浜ユーラシア・スタチュー・ミュージアム
2021 年 11 月 20 日・21 日に実施した。
日本大通会場に加え、中華街会場に横浜中華街発展会協同組合による新作オリジナルスタチュー、兵馬俑 1 号・2 号を設置した。

（５）市民協働

項　　目	内　　容
ボランティアとの協働	従来のワークショップ・各種イベント等に加え、市民ボランティアが幅広く館活動に協働で参加できるように検討・試行を行う。

（６）近隣施設との連携

項　　目	目的・内容
新聞博物館・放送ライブラリーとの連携	隣接する横浜情報文化センター内の新聞博物館・放送ライブラリーと、広報やイベントなどの事業連携をおこない、来館者の相乗効果を図る。
日本大通り活性化委員会・山下公園通り会への参加	日本大通り界隈の事業者が加盟する日本大通り活性化委員会と山下公園通り沿いの事業者が加盟する山下公園通り会の事業に参加し、日本大通りおよび山下町周辺の賑わい創出および横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館への観光客の誘致を図る。
横浜中華街発展会協同組合との連携	スタチュー・ミュージアムの実施や、出張展示など行い、観光客の誘致を図る。
なか区ブックフェスタへの参加	中区の図書館やブックカフェなどが主体となり、10～11 月に行われる読書関連イベントに参加し、当館の周知と来館者の誘致を図る。

（７）学校連携・大学連携

項　　目	内　　容
博物館利用の促進	小学校団体の見学利用を推進する。モンゴル童話（2年生国語科単元）の時代的・社会的な背景や吉田新田とその後の発展（4年生社会科単元）を素材

	とする学校との連携。 **歴史関係で小・中学校との連携も行っていく。**
スーホキットの貸出	**モンゴル文化を体験できるように、モンゴル衣装と馬頭琴のキットを小学校等に貸出する。**
教員向け研修の企画	**小学校の授業内容に則した教員対象の研修を企画、実施する。**
大学教育との連携	**大学所属の研究者と協働**し、講義などに合わせた形で小規模な事業を実施する。

（８）広報出版・情報発信

項　　目	内　　容
出版物発行	・研究紀要11号の発行（400部）。PDFによる発行・公開。 ・館報「News from EurAsia 横浜ユーラシア文化館ニュース」 第38、39号を発行する。（各9，000部）
リーフレット類作成・配布	横浜ユーラシア文化館案内パンフレットを配布し、催し物案内を作成・配布する。
ホームページの運営	ホームページでの最新情報、展示内容、資料解説、イベント等の案内、および、資料データベースの拡充、OPAC検索、全国漢籍データベースへのリンク。
メールニュース配信	最新情報を確実に提供するため、登録された希望者にメールニュースを配信する。
その他の広報	・日本大通り駅改札外掲示板へのポスター掲出 ・インターネットでの施設案内 ・SNS（Twitter等）による情報発信 ・テレビ、ラジオ等放送媒体による施設案内 **・フィルムコミッションへ積極的に協力**し、当館を撮影場所としてPR ・タウン情報誌、旅行情報誌への施設案内掲載 ・市内観光案内所、観光施設へのチラシ訪問配布 ・スタンプラリー等による集客
市民ニーズの把握	実施事業でアンケートを行い、満足度調査と協働に対する市民ニーズの把握を行う。
学校連携事業	財団エデュケーター、教育委員会指導主事を通じて教育現場のニーズを把握し、教員、生徒に向けた情報発信を行う。

（９）実習生・研修生の受け入れ

項　　目	内　　容
博物館館務実習	学芸員資格取得を目指す実習生を受け入れる。約3名。
社会研修	大学のインターンシップなどの受入。

職場体験	市内中学生の職場体験の受入。
大学学外研修	**東洋史専攻の学生などを対象に、大学のカリキュラムに則した形の学外実習を受け入れていく。**

５　情報事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）収蔵資料等データ入力

各施設の収蔵品、寄贈・寄託資料及び市域指定文化財のデータベース化を図る。

（２）ホームページを利用した市民ニーズの把握

ホームページ上で、施設に対する市民のニーズを把握する。

ホームページアクセス目標件数　　１００，０００件

６　施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

横浜都市発展記念館については、これまでと同様適正な維持管理に努めてまいります。

令和５年度の空調設備更新工事（長寿命化工事）に向けて、横浜市建築局にて設計実施。

展示室除湿機新規設置工事実施に向け、横浜市教育委員会事務局生涯学習文化財課と調整。

７　収益事業（定款第４条第２項）

（１）ミュージアムショップの経営

横浜都市発展記念館・横浜ユーラシア文化館のミュージアムショップにおいて、資料目録、研究紀要等の出版物、関連図書、企画展関連グッズ、所蔵品のレプリカ等の販売を行う。

立ち上げたオンラインショップと SNS(Twitter・YouTube)を連動させ相互の閲覧を促進させるとともに、収益の向上を図ってゆく。

（２）飲料自動販売機の設置

施設利用者の利便を図るため、飲料自動販売機を設置し、飲み物を販売する。

６　三殿台考古館事業

［取組の全体像］

国指定史跡三殿台遺跡は学術的価値が高いだけでなく、市民参加の発掘調査の先駆けとして全国的に知られており、縄文時代から続く歴史の証人である遺構と出土品等を適切に保存・管理することで、未来へ継承するための拠点となっています。

令和３年度は新型コロナウイルスの感染拡大防止対策として、これまでのイベントを**「コロナ対策」**及び**「熱中症対策」**の２観点から精査し、**全イベントの屋外開催・夏季および冬季のイベントの中止**という方針を打ち出しましたが、コロナの感染状況が変化しない限り、令和４年度も同様の方針を維持し、感染対策に万全の注意を払って運営してまいります。

また、感染症まん延によって来館できないお客様への新たなサービスとして、**施設の魅力を伝える動画を作成し、Web 上で閲覧できる仕組みの検討を始めます。**

以上の観点を踏まえて、令和４年度も前年度の事業計画を踏襲しつつも細部の改善を加

えながら、運営基本方針の実現に向けた取組を実践します。

１．来館者の興味と関心に応える三殿台考古館

来館者の訪問目的が多岐にわたるため、画一的な解説は避けなければなりません。そのためには、それぞれの求めに応じた柔軟で理解しやすい解説を実践します。

小学校の社会科見学においては各校の要望に耳を傾け、児童の「知りたい・学びたい」を大切にした校外授業を実現するため、担当教員との綿密な事前打ち合わせを行います。また、校内事情によって来館が難しい学校には、ＤＶＤの貸与及び出前授業等も可能であることを広報します。

なお、昨年度から実施した見学後のアンケート（意見書）は今年度も継続し、学校現場の声を日々の活動に活かします。

２．市民と地域に寄り添う三殿台考古館

岡村のまち及び磯子区・南区には、三殿台考古館を身近に感じていただける方が多数います。地域の方々による散歩・乳幼児の遊戯・小学生の遊び等を通して、「知りたい・学びたい」とは異なるコミュニケーションによって、多くの方々との良好な関係を継続していきます。その一環として「ダイヤモンド富士を見る会」「夜景を見る会」等、地域の皆様を対象にしたイベントを立案することで、三殿台を身近に感じていただけるよう努めます。

３．市民ボランティアと協働する三殿台考古館

三殿台考古館ではボランティアの方々が、収蔵されている出土品の再整理及び来館者への遺跡案内をしています。ボランティア相互の情報交換は各自の技術を向上させるだけでなく、自己実現と啓発に繋がっています。

また、「ボランティア研修」を開催することで、土器作り及び縄文・弥生・古墳時代を学ぶ機会を設けます。今後も引き続き、市民ボランティアとの協働とその育成に努めていきます。

１．資料収集保管事業・調査研究事業（定款第４条第１項第１号①）

（１）保管資料再整備事業

（ア）出土品保管再整備事業

調査後収蔵されたままになっている出土品についての整理作業、現在展示中の遺物の補修・着彩、新たな復元等を継続して行い、資料の保全と活用を図る。三殿台遺跡と周辺部遺跡関係資料の保管スペースを確保し、保管状況を改善する。

（イ）記録資料のデジタル化事業

記録資料の保存と活用を図るため、写真や測量図面のデジタルデータ化を実施する。整理後、災害に備える意味も含めてデジタルデータを横浜市歴史博物館と埋蔵文化財センターに分散保管する。本年度も劣化が著しい写真資料を優先し、埋蔵文化財センターと連携して記録資料のデジタル化を継続する。

（２）調査研究事業

（ア）三殿台遺跡出土品の資料化

三殿台遺跡出土資料のうち、弥生時代中期後葉の遺物と遺構について再整理報告を行う。

（イ）三殿台考古館収蔵資料の活用

館収蔵資料を展示等で公開・活用するほか、貸出し等も行う。

２．常設展事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）常設展事業

常設展示室の維持管理を適切に行うとともに、来館者の求めに応じた柔軟で理解しやすい解説に努める。新型コロナウイルス感染症の拡大防止を意識した適切な対応を実践する。

また、常設展示を見直し、来館者の見学に効果的なレイアウトを検討する。

（２）露出展示遺構保全事業

保護棟内に露出展示されている竪穴住居跡の適切な保全を図るため、必要なメンテナンスを定期的に実施する。（令和３年度：偶数月：専門業者によるメンテナンス）

常 設 展 示 室

縄文時代　復元住居模型（1/30 縮尺）

３．企画普及事業（定款第４条第１項第１号②）

（１）企画普及事業

項　　目	目的・内容
「いそっぴゴールデンウィーク 2022 スタンプラリー」	磯子区の市民利用施設が連携して行うゴールデンウィーク企画事業に参加する。（4/23～5/8）　（R2/R3 年度はコロナ禍により中止）
三殿台遺跡 整理ボランティア	・埋蔵文化財に関心ある市民にボランティアとして整理作業に参加してもらい、接合・復元、修復作業を市民協働で実施する。 ・埋蔵文化財修復方法を体得してもらうとともに、市民の生涯学習意欲に対応する。 ・年２回ボランティア研修を行い、生涯学習支援を行う。 ・体験学習の補助を依頼する。
三殿台遺跡 ガイドボランティア	・埋蔵文化財に関心ある市民にボランティアとしてガイドに参加してもらい、来館者への三殿台遺跡の解説を市民協働で実施する。

	・年２回ボランティア研修を行い、生涯学習支援を行う。 ・体験学習の補助を依頼する。
学校団体見学の受入れ	小・中・高・大学による社会科見学を随時受け入れる。 ※幼稚園・保育園の団体利用も受け入れる。
職業体験・職業インタビュー	中学生の職業体験・職業インタビューを受け入れ、キャリア教育を積極的に支援する。(R2/R3 年度はコロナ禍により要請なし)
授業づくり支援	クラブ活動・総合的な学習の時間等の授業づくりを支援する。
一般団体見学の受入れ	一般団体の見学も受け入れている。申し出があれば解説も受け付けている。
施設紹介動画の作成と Web 閲覧の検討	**三殿台考古館の魅力を伝える動画の制作**を行い、**Web 上で公開**できるようにする仕組みづくりの検討を開始する。
ホームページの運営 Twitter の運営	・随時ホームページを更新し、体験学習の情報等を広報する。 ・R2 年度開設　三殿台考古館の魅力を様々な情報を適宜発信する。
ダイヤモンド富士を見る会 夜景を見る会	ダイヤモンド富士の見学や夜景鑑賞会、天体観測イベント等を計画し三殿台ならではの魅力を発信する。この期間は閉館時刻を延長する。
その他の広報	（ア）体験学習の案内チラシを作成し、周辺小・中学校や市民利用施設に配布する。 （イ）「PLANETかながわ」等、ネット利用の情報を提供する。 （ウ）テレビ・ラジオ等放送媒体による施設の紹介をする。 （エ）新聞やタウン紙等紙媒体による施設の案内をする。 （オ）詳細地図を掲載した遺跡紹介チラシを近隣施設に配架する。

ボランティア活動

小学校　社会科見学

幼稚園　生活体験

（２）体験学習事業

項　　目	目　　的　・　内　　容
ゴールデンウィーク イベント 体験教室（３種類）	ゴールデンウィークに実施する子どもと親子向けの体験教室 「いそっぴゴールデンウィーク 2022」期間中に実施 ①古代人体験教室　　5/3　　対象：小学生 ②勾玉作り教室　　5/4　　対象：小学生以上

	③石器作り教室　　5/5　　対象：小学生以上　　事前申込
弓矢うち大会	弓矢うち体験　春・秋・冬の３回実施 １回目：5/14、２回目：9/17、３回目：12/3　　当日申込
横浜開港記念日イベント	6/2横浜開港記念日に子ども向けの火起こし体験教室　当日申込
勾玉作り　体験教室	9/10　　対象：小学生　　事前申込
土器作り　体験教室	10/ 8、11/5（野焼き）　　対象：小学生　　事前申込
土偶作り　体験教室	10/ 9、11/5（野焼き）　　対象：小学生　　事前申込
土器作り教室	10/15・16、11/5(野焼き)　対象：中学生以上　　事前申込
石器作り　体験教室	10/22　　対象：小学生以上　　事前申込
ひらひら凧作り教室	12/3　子ども向けの凧作り教室　　当日申込
火起こし体験教室	常時受け付け　来館者からの申し出があれば行う。
勾玉作り教室	常時受け付け　５名以上の来館者からの申し出があれば行う。
弓矢打ち体験	常時無料で来館者に貸し出し。

＊ホームページ及びTwitterに掲載するとともに、「広報よこはま磯子区版」等にも掲載する。
＊熱中症予防の観点から、夏季（7月・8月）はイベントの開催を中止します。また、インフルエンザと新型コロナウイルスの並行感染の拡大を懸念し、1月及び2月のイベントも中止とする。

岡村小６年生　土器焼き

石器作り体験教室

土器作り教室作品

（３）展示事業

項　　目	目　的　・　内　容
土器作り体験教室 作品展	土器作り体験教室参加者の作品を展示室に展示し、合わせて施文具や製作方法などの解説をする。

（４）グッズ制作事業

項　　目	目　的　・　内　容
缶バッジの販売	三殿台考古館オリジナル缶バッジを販売する。
土器片ペンダントの製作・販売	土器片ペンダントを製作し販売する。グッズ製作は外注するのではなく、ボランティア活動の一環として行う。

	（ベンガラで赤色塗彩したバリエーションも販売）
オリジナルクリアファイルの販売	三殿台考古館オリジナルクリアファイルを販売する。
勾玉作りキットの製作・販売（青田石、滑石：ピンク、白）	勾玉作りキットを製作し販売する。販売時に埋蔵文化財センターの勾玉づくり動画を紹介し、作り方のサポートをする。

勾玉作りキット

グッズ販売

三殿台遺跡の普及と関連グッズの販売を促進するため、三殿台考古館及び埋蔵文化財センターのホームページにて、「三殿台考古館オリジナルグッズ」を通信販売している。

４．施設維持事業　（定款第４条第１項第１号③）

（１）三殿台考古館の管理

（ア）経常的な維持管理

施設内の清掃・草刈り・樹木の剪定等や復元住居・展示室の清掃を毎日行う。また、敷地の草刈りと樹木剪定については年に数回専門業者に委託し、施設内の整備に努める。

住居保護棟内の竪穴住居露出展示遺構については、文化財保存科学の専門業者に委託し、年６回のメンテナンスを行って、適切に保全する。

（イ）開館時間の拡大

午前９時から午後５時までを開館とする。（10 月～3 月は午後 4 時閉館）

なお、ダイヤモンド富士（9 月・3 月）及び夜景を見る会（12 月）の期間は閉館時刻を延長し、来館者に三殿台を違う角度から味わっていただく。

ダイヤモンド富士を見る会

夜景を見る会

（ウ）ミストシャワーの設置

屋外中心の施設であることから、近年の猛暑による熱中症対策の一環として、令和４年度もミストシャワーを設置・噴霧する。このシャワーは磯子区役所との連携により、ミスト扇風機を借用（約９週間）。来館された多くの方々から好評をいただいている。

（エ）バリアフリー化の実現

車椅子やベビーカーでも利用しやすいように、階段スロープ化等の実施について設置者と検討・協議をしていく。

（オ）トイレの洋式化

当館のトイレは和式であり個室面積も極めて狭く利便性に劣る。とくに高齢者及び身体の不自由な方にはご不便をおかけしていることから、トイレの改装について設置者と検討・協議を継続していく。

（２）飲料販売

来館者へのサービスとして、敷地内に自動販売機を設置し飲料を引き続き販売する。

Ⅲ　文化財業務委託事業

※文化財業務委託事業については、令和４年度横浜市予算が議決され、その後、横浜市と委託契約が締結された場合、その内容に基づき実施するものです。従いまして、この事業計画案では令和３年度の契約実績をベースに取組立案をしています。

１　埋蔵文化財センター事業

［取組の全体像］

埋蔵文化財センターでは、文化財保護法に基づき埋蔵文化財の発掘調査および出土品の整理をおこない、発掘調査報告書にまとめて刊行します。これらの調査・研究成果は普及事業に活用します。

発掘・資料整理事業として、港北ニュータウン開発事業に伴う出土品や記録資料の整理を継続します。一方で、従来当財団が単独で受託していた**公共事業に伴う発掘調査や整理報告業務が**、令和２年度から**民間事業者との競争入札制に移行**しつつありますが、これまで蓄積してきた埋蔵文化財調査の知識と経験・技術や適正な設計のノウハウをもとに、今後も業務を安定的に受託できるよう、更なるスキルアップを目指します。具体的には、**積算体系の見直し**を行い、さらに積算作業をスピーディーに行うために**積算ソフトを導入**し、職員に**発掘調査積算研修**等を行います。

資料収集・保管・整理事業では、市への移管資料や市民からの寄贈資料が膨大な数量にのぼり、**収蔵スペースの不足が差し迫ったものとなっています。**資料保管再整備作業を実行しつつ、市教育委員会と連携してこれらの問題に対処していきます。

普及事業としては、埋蔵文化財センターの調査・研究の成果を市民に還元し、埋蔵文化財保護への関心を高めるため展示・講演会等を開催します。また地域の地区センター・図書館等の公共施設や郷土史団体と連携・協働した活動を続けます。さらに**広報紙・ホームページ・Twitter での情報発信や、YouTube を活用した動画配信**もおこなっていきます。

コロナ禍の影響で昨年度は実施できなかった学校連携ですが、感染防止に十分配慮しながら施設見学・職場体験を継続して受入れます。

経年により劣化した**電源設備の交換工事**が予定されており、関係各部署と連携し確実に工事を実施していきます。また施設の維持・管理を適切に行ない、長寿命化を図ります。

新型コロナウイルス感染予防のため、手洗い・換気・マスクの着用をはじめ３密状態を作らないよう徹底します。またスリッパの使用を取りやめ、使い捨てのシューズカバーを着用し感染拡大防止に努めます。

１　埋蔵文化財整備事業（定款第４条第１項第１号①）

港北ニュータウン開発や市内公共事業に伴う発掘調査の出土品・写真・測量図等の記録資料の整理を行い、成果を報告書としてまとめます。また、劣化の進む写真資料や測量図等のデジタル化、出土品保管状況の改善事業を実施します。

（１）遺物整理・調査研究

項　　目	目的・内容	今年度の成果目標
神隠丸山遺跡の整理（４／８年次）	神隠丸山遺跡（都筑区早渕一丁目所在）は、縄文時代中期・後期の良好な環状集落であり、港北ニュータウン遺跡群を代表する集落遺跡である。各期の資料整理を通じ、その集落構造を明らかにすることで当該地域における遺跡群の様相を把握することをめざす。	昨年度に引き続き、縄文時代後期の資料整理を行い、調査報告書（縄文時代後期編）を刊行する。また、住居跡内の貝層から検出された貝・骨類の基礎整理を実施する。

（２）報告書発行

項　　目	目的・内容	今年度の成果目標
神隠丸山遺跡報告書（縄文時代後期編）の刊行	神隠丸山遺跡における縄文時代後期の集落構造を解明し、港北ニュータウン遺跡群及び周辺遺跡との比較・検討からその動態を考察する。	神隠丸山遺跡報告書（縄文時代後期編）の刊行

（３）資料収集・保管・整理

項　　目	目的・内容
記録資料デジタル化	劣化の進む写真・測量図等の資料をデジタル化し記録の整理と保存を行う。写真資料については、普及啓発・資料貸出などの利便性向上にも資する。
出土品等保管再整備	ボランティアの協力を得て収蔵資料の再整理を行い、収蔵スペース及び保管状況の改善をはかる。また、令和４年度より、横浜市教育委員会生涯学習文化財課より委託を受け、**外部収蔵庫への移動準備を前提とした収蔵資料の内容確認・仕分け・台帳作成等の保管整備事業を開始する。**
移管・寄贈資料の管理	民間調査組織等より横浜市へ移管された、あるいは市民から寄贈された資料を適切に管理・保管する。また、令和４年度より、**デジタル媒体による発掘調査記録類の移管とデータ保管・管理**への対応の検討を開始する。
図書等の収集・受入れ・整備	図書資料等の収集・受入れ・整理・管理などを行い、市民の利用に供する。また、令和４年度より、図書管理システムへの管理方法移行を前提としたデータ作成を行う。
資料の貸出し	写真データなどの複製資料、土器・石器などの出土資料等の外部機関への貸出しを行う。

出土品整理作業

記録資料保管再整備作業

図書等の収集・受入れ・整備

２　普及啓発事業（定款第４条第１項第１号②）

発掘調査の成果を、展示の開催や広報紙・Web での情報発信等をとおして市民に公開していきます。また、体験学習や歴史散策など体験型の普及事業では市民ボランティアの協力を得て実施します。

項　　目	目的・内容
企画展「横浜の遺跡展」 **・講座「横浜の考古学」** 令和４年８月～９月（予定）	**舞岡熊之堂遺跡の戦争遺跡**をテーマに展示を行う。 会場：戸塚センター、舞岡地区センター ＊期間中に関連事業として講座を開催。また、展示に関連した**ブックレット**を作成し、販売する。
体験学習等	地区センター等地域の公共施設へ出張して、勾玉作り・拓本取りなどを実施。
地域歴史散策	市域南部の遺跡・史跡を巡るコースを取り入れた見学会を行う。 また、令和４年度より、参加者のよりいっそうの理解を深めるために、散策と**座学**をセットで行う。
常設展示	近年の近現代遺跡の発掘増加に伴い、埋蔵文化財センターの**常設展示室の一部をリニューアル**し、**横浜の近現代考古学の進展**を見学者に分かりやすく伝える。
外部施設における資料の展示等	図書館・区民文化センター等の公共施設で、地域に関連する出土品等の貸出し・展示・解説を行う。
講師等派遣	外部団体の主催する講演会やイベント等へ専門職員を派遣。
広報紙**・ブックレット**等の発行	市内の埋蔵文化財を紹介する広報紙「埋文よこはま」を年１回発行する（発行 10,000 部）。また、展示に関連した**ブックレット**を刊行して販売する（野島貝塚・舞岡熊之堂の戦争遺跡）。
Web での情報発信	イベントや最新ニュースなどの**情報をＨＰやTwitter 等でタイムリーに発信**し、報告書等刊行物の通販を行う。また埋蔵文化財に関する**動画コンテンツを YouTube で配信**する。
学校対応	近隣学校の総合学習・展示室見学や、職場体験等を受け入れる。
見学者・レファレンス・研修室利用対応	埋蔵文化財センターに来館した市民や電話・Web 等での問合せに対応する。また、研修室を無料で一般利用団体に貸し出す。

地域歴史散策

図書館連携展示

お城ＥＸＰＯ

３　発掘調査事業（定款第４条第１項第１号①）

文化財保護法に基づき、埋蔵文化財の発掘調査及び発掘調査の成果を整理し報告書を刊行する業務を受託します。

（１）発掘調査（予定）

項　　目	予　定　件　数
確認調査	２件
本発掘調査	１件

（２）整理報告

項　　目	目的と内容	今年度の成果目標
舞岡熊之堂遺跡整理作業（３／３年次）	平成 29～令和元年度にかけて発掘調査された戸塚区舞岡熊之堂遺跡の整理作業を前年度に引き続き行う。	令和４年度は整理作業の最終年で、報告書の編集作業を行い報告書を刊行する。

（３）調査研究

項　　目	目的と内容	今年度の成果目標
舞岡熊之堂遺跡報告書刊行に伴う調査研究	舞岡熊之堂遺跡に関する調査研究を行い、考察執筆および普及啓発事業の基礎データとする。	主に当遺跡の特色である戦争遺跡（照空隊陣地）の研究を行い、報告書考察にまとめる。※展示・講座については普及啓発の項目を参照。
上瀬谷通信施設地区の調査研究	近年、試掘調査を継続している上瀬谷通信施設地区について、主に旧日	上瀬谷通信施設地区の旧日本海軍施設について検出された遺構の機

	本軍の軍事施設の研究を行い、今後の発掘調査に活かす。	能を記録資料の比較から明らかにする基礎研究を行う。

（4）積算基準の見直し等

・公共事業に伴う発掘調査事業の入札化に対応して**積算基準の見直し**を行う。

・積算作業を早く・正確に行えるように、**積算ソフトを導入**する。

・埋蔵文化財センター職員の**積算に関する知識・技術の向上**を目指し、**研修を実施**する。

小机城　試掘調査

上瀬谷通信施設地区　試掘調査

舞岡熊之堂遺跡　整理作業

4　施設連携事業（定款第４条第１項第１号②）

財団他施設との連携事業を実施します。

項　　目	目的・内容	今年度の達成目標
お城ＥＸＰＯへの出展	毎年12月にパシフィコ横浜で開催されるお城ＥＸＰＯに、横浜市歴史博物館と連携して出展する。	
中世城郭の研究（仮）	横浜市歴史博物館と連携して、小机城を中心とする中世城郭の研究を進める。	令和３年度に実施された小机城跡埋蔵文化財試掘調査成果と周辺事例の比較・検討を行う。

5　施設維持事業（定款第４条第１項第１号③）

・埋蔵文化財センターの施設維持を適切に行います。

・電源設備の交換工事が予定されており、安全・確実に実施していきます。

2　史跡等管理事業

［取組の全体像］

八聖殿郷土資料館を維持・管理し、漁具や農具を中心とした収蔵資料の公開や、地域住民や近隣小中学校への普及事業を行います。

また、国指定史跡称名寺境内等の史跡管理を行います。

１　八聖殿郷土資料館事業（定款第４条第１項第１号）

横浜市の歴史・文化財関連施設である八聖殿郷土資料館施設の維持管理を行うとともに、展示・収蔵資料の管理・活用や見学者への資料解説等を行います。

項　　目	所在地	目的・意図
横浜市八聖殿郷土資料館	中区本牧町 76-１	市民が安全に利用できるよう、昭和８年建造の施設の維持・管理や敷地内の環境整備を行う。また、施設収蔵資料の展示や資料の貸出のほか周辺地域との連携事業等を実施する。

２　史跡管理事業（定款第４条第１項第１号③）

横浜市域の文化財である、国指定史跡称名寺境内、県指定史跡稲荷前古墳群・県指定史跡市ヶ尾横穴古墳群・上行寺東遺跡復元整備地の維持管理を行います。

管理対象施設等	所在地
国指定史跡　称名寺境内	所在地：金沢区金沢町 212
県指定史跡　稲荷前古墳群	所在地：青葉区大場町
県指定史跡　市ヶ尾横穴古墳群	所在地：青葉区市ケ尾町
上行寺東遺跡復元整備地	所在地：金沢区六浦二丁目

Ⅳ　市史資料委託事業

［取組の全体像］

市史資料室の使命は、昭和期以降の市政に関する資料や市民の生活に関する資料など、昭和の横浜を記録した資料の保存・管理をおこなうことです。あわせて、現代史に関する新たな資料の調査・収集を図り、これらの資料についても整理・目録化を進め、公開普及に努めることも重要な使命です。資料の普及については、所蔵資料を中心に図書館内で展示会を開催すると同時に、調査研究員による講演会・講座等をおこないます。また、例年通り調査研究の成果として紀要や報告書を刊行していきます。

市史資料室事業は横浜市総務局行政・情報マネジメント課の委託を受けて実施していますが、近年では所管課との協議を経て、指定管理施設である開港資料館や都市発展記念館との連携事業を強化してきました。具体的には両館が開催する企画展示への協力のほか、資料の調査・研究を共同でおこなっています。

１　資料収集保管事業（定款第４条第１項第１号）

（１）資料収集・保存

項　　目	目的・内容
資料の寄贈	市民に理解と協力を求め、資料を流出・滅失・破損から守る。
資料購入	調査研究に資する資料を収集する。
資料の移管	横浜市より歴史的公文書・行政刊行物の移管・受入を行う。
資料保存	受け入れた資料を中性紙封筒、及び保存箱に収納する。再整理資料を中性紙封筒へ入れ替え作業を行う。
資料管理	資料を適切に管理し、資料台帳データの点検、更新および資料検索用目録の処理を行う。
マイクロフィルム化	資料のマイクロフィルム化と複製製本作成を推進する。(横浜市総務局行政マネジメント課予算にて執行)

（２）資料整理・公開

収集資料の公開に向け、資料群に応じた適切な方法で整理し、目録を作成する。

公開資料の内容を紹介する資料概要を作成し、毎年更新する。

原資料を順次マイクロフィルム化し、複製製本を作成して公開する。

一般の閲覧に適さない写真資料はデジタル化し、データベースによって管理する。

（３）資料の貸出

「横浜の空襲と戦災」関連資料の写真パネルと一部の資料（複製)、および市史資料室所蔵の写真資料（画像データ）について、所蔵資料の普及と有効利用を図るため貸出を行う。

２　調査・研究事業（定款第４条第１項第１号①）

（１） 調査研究

資料整理に伴う所蔵資料の調査・研究、新規資料収集のための調査、展示会等公開普及事業に伴

う調査・研究などを行う。

今年度は、所蔵資料ならびに複製資料の整理、および調査研究を行う。

（２） 戦中・戦後期の都市横浜に関する連携調査研究事業

都市発展記念館・開港資料館と連携して、戦中から戦後復興期を経て、高度経済成長期へと至る昭和期横浜の歴史を多角的に明らかにする調査研究事業を行い、展示会・講演会・出版物等の事業にその成果を反映させる。

（３） 戦前・戦後に関する調査研究

昭和戦前期の都市化や教育、および戦後期の市民生活に関する調査研究を行い、その成果を展示に反映させると共に、『市史通信』『紀要』『報告書』などの出版物等に発表する。

３　資料活用事業（定款第４条第１項第１号②）

項　　目		目的・内容
資料活用		所蔵資料及び新規受入資料の調査・研究を基として、資料紹介・目録・論文等にまとめ、成果の発表を行う。
	市史通信(第44号～46号)の発行	所蔵資料や新収集資料を紹介し、展示会等の開催をお知らせする情報誌として、年３回発行し、市民への配布を行う。（各4,000部発行）
	報告書の発行	令和３年度に開催した展示会「戦後横浜－それぞれの出発」に関して、報告書を発行する。(1,500部発行)
	紀要の発行	調査・研究の成果、および資料紹介・活動報告等を盛り込んだ紀要を発行する。(800部発行)

４　資料公開普及事業（定款第４条第１項第１号②）

展示会・講演会や各出版物その他を通じて、所蔵資料の紹介に努め、資料閲覧の促進を図る。

項　　目		利用者目標数	目的・内容
閲覧室運営		入室者　600人 レファレンス　250件 電話・メールレファレンス　250件 写真等貸出　200件	資料閲覧及び昭和期以降の横浜の歴史に関するレファレンスの対応を行う。 所蔵資料（画像等）の提供・貸出を行う。
普及広報			所蔵資料を活用した展示普及、職員による講演活動・情報発信など。
	資料室内展示コーナー	5,000人	市史資料室にて、所蔵資料の公開展示を行う。
	展示会・講演会等の開催	展示会　5,000人	**展示会「教育の震災復興と戦争（仮）」**を開催し、関連の講演会等を行う。その他随時展示解説等を行う。

開港資料館・都市発展記念館および学校との連携		開港資料館・都市発展記念館の企画展示及び講座に協力する。 学校に空襲資料パネル等を貸し出し、助言するなど授業に協力する。
展示会等への協力		**図書館や市の施設等で開催される展示会・講座等への協力。**
職員研修会・大学講座等		講座・研修会等における職員派遣。
ホームページ（横浜市総務局法制課で管理）	80,000 件 （アクセス件数）	ホームページにおいて、所蔵資料概要を更新し、資料（写真等）の電子公開を行う準備をする。
広報宣伝活動事業		年３回発行の『市史通信』の他、展示会・刊行物案内等のちらしを作成し、財団施設ほか関連機関へ発送・配布する。 新聞・雑誌等への取材対応、記事掲載。 メールニュース（よこはま歴史かわら版）による広報。
その他		研究会・市民向け講演会等への職員派遣等。